
マイ・タイムライン検討の手引き

【大規模洪水からの『逃げ遅れゼロ』に向けて】

平成29年5月

鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

目次

| | |
|----------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 1. マイ・タイムラインの検討を進めるに当たって | 2 |
| 1.1 マイ・タイムラインとは | 2 |
| 1.2 マイ・タイムラインの検討 | 3 |
| 1.3 マイ・タイムラインの検討過程 | 4 |
| 1.4 マイ・タイムライン検討会の開催 | 5 |
| 1.5 マイ・タイムラインの検討によって得られるもの | 7 |
| 2. マイ・タイムラインノートを用いた検討 | 8 |
| 2.1 マイ・タイムラインノートについて | 8 |
| 2.2 マイ・タイムラインノートの構成 | 10 |
| 2.3 マイ・タイムラインノートを用いた検討会の運営 | 14 |
| 3. マイ・タイムラインの運用 | 64 |
| 3.1 洪水時におけるマイ・タイムラインの活用 | 64 |
| 3.2 マイ・タイムラインのメンテナンス | 65 |
| 3.3 防災訓練等でのマイ・タイムラインの活用 | 66 |
| 3.4 市町のタイムライン等へのフィードバック | 67 |

参考資料

《参考資料1》マイ・タイムラインノート

《参考資料2》地理院地図の利用方法について

はじめに

平成 27 年 9 月 関東・東北豪雨においては、鬼怒川下流部の堤防決壊等により常総市の面積のおよそ三分の一に相当する約 40km² が浸水し、自衛隊、消防、警察、海上保安庁が合わせて約 4,300 名を救助するなど、避難の遅れや孤立が発生した。これを受け、平成 27 年 12 月 4 日、国土交通省関東地方整備局、茨城県、常総市など鬼怒川沿川の 7 市町は、ハード対策とソフト対策が一体となった緊急的な治水対策「鬼怒川緊急対策プロジェクト」を発表した。また、続く 12 月 10 日には、社会資本整備審議会 河川分科会 大規模氾濫に対する減災のための治水対策検討小委員会が「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について ～社会意識の変革による「水防災意識社会」の再構築に向けて～ 答申」をとりまとめ、鬼怒川緊急対策プロジェクトのようなハード・ソフトを一体的に進める取り組みを全国の国管理河川で進めることとなった。そして、これらの取り組みは、平成 28 年 8 月に北海道・東北地方を襲った一連の台風による被害を踏まえ、中小河川にも拡大されている。

鬼怒川においては、並行して流れる小貝川とあわせて、国・県・10 市町で構成される「鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」を設置し、犠牲者ゼロ等の目標に向けて、迅速かつ的確な避難行動のための取り組みを進めるなどとした取組方針を平成 28 年 5 月 11 日に決定した。そして、その具体的施策の一つとして「みんなでタイムラインプロジェクト」を進めることとし、常総市内の 2 地区をモデル地区として半年間の検討を進めてきた。

みんなでタイムラインプロジェクトは、円滑な避難のためには住民一人ひとりがそれぞれに合った適確な避難行動をとることが重要との認識の下で、住民一人ひとりが自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、いわば「自分の逃げ方」を手に入れることを目的として、市町のサポートの下で住民が自らの環境に合った「マイ・タイムライン」を自ら検討するプロジェクトである。モデル地区における検討によって、住民の「水防災意識の高揚」と「水防災知識の向上」、さらには「地域の絆の強化」を図ることが可能であることを確認している。

本手引きは、鬼怒川・小貝川の氾濫水が到達する恐れのある地域において「逃げ遅れゼロ」を実現するため、当該地域の市町の職員、自主防災組織の役員、防災士等の資格を保有する住民といった、地域防災力の向上に取り組む方々を対象に、地区でマイ・タイムラインを検討していく際の留意事項を取りまとめたものである。そのため、実際にマイ・タイムラインを検討する際には、それぞれの地区に応じた準備が必要である。本手引きでは、各節の冒頭に要点を枠囲みで記載しており、詳細な解説等はその後に記載している。検討過程の具体事例としては、「みんなでタイムラインプロジェクト 常総市モデル地区における検討の記録」をとりまとめているので、参考にされたい。

なお、本手引きは、今後各地区でマイ・タイムラインの検討が進められた際に検討した内容や工夫した取組を踏まえてさらに改善を重ねていくこととしている。

本手引きに基づき、みんなでタイムラインプロジェクトが鬼怒川・小貝川の隅々まで広がって水防災意識社会の再構築に資するとともに、地域防災力の強化に役立つことを期待している。あわせて、全国各地で水防災意識社会の再構築に向けた取り組みを進めている方々の参考になれば幸いである。

1. マイ・タイムラインの検討を進めるに当たって

1.1 マイ・タイムラインとは

マイ・タイムラインは住民一人ひとりのタイムラインであり、台風の接近によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものである。

時間的な制約が厳しい洪水発生時に、行動のチェックリストとして、また判断のサポートツールとして活用されることで、「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待される。

【解説】

阪神・淡路大震災や東日本大震災といった大規模広域災害を経て、公助の限界が明らかになるとともに、自助・共助の重要性が広く認識されることとなった。地震のみならず、洪水や高潮に対しても、自助、共助、公助のバランスを取って災害対策の充実を図ることが重要である。

また、災害発生の予測が困難な地震と異なり、洪水や高潮は台風の進路や降雨の状況などを基に災害（氾濫）発生までの事態の進行が予測できることから、時間軸に沿って予め防災行動を整理しておくタイムラインが有効である。

鬼怒川・小貝川の氾濫水が到達する恐れのある地域においては、平成 28 年 5 月末までに「避難勧告等の発令に着目したタイムライン」を全ての市町において作成し、河川管理者と関係市町が洪水の進行に備えた防災行動を整理した。また、洪水時情報伝達演習やホットライン訓練等の取り組みを進め、行政間（国・県・市町）における洪水時の連携を確認・強化してきている。

一方、洪水から生命を守るためには、住民一人ひとりが自ら避難行動をとることが重要であるが、現時点では、住民一人ひとりに、適切な避難のための知識や施設では防ぎきれない大洪水が必ず発生するという意識が、必ずしも浸透しているとは言えない状況である。

そのため、平成 28 年 10 月、住民一人ひとりが自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、いわば「自分の逃げ方」を手に入れることを目的として、市町のサポートの下で住民一人ひとりが自らの環境に合ったマイ・タイムラインを自ら検討する「みんなでタイムラインプロジェクト」を始動することとした。

マイ・タイムラインは住民一人ひとりのタイムラインであり、台風の接近、河川の水位上昇等にあわせて、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものである。

洪水は自然現象であるため、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではなく、その都度、台風・降雨・河川の状況等を考慮して判断しなければならないことにも留意しておく必要があるが、時間的な制約が厳しい洪水発生時に、行動のチェックリストとして、また判断のサポートツールとして活用されることで、「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待される。

なお、マイ・タイムラインの検討に際しては、検討主体である住民本人やその家族に関する個人情報扱われる可能性が高いことから、市町で個人情報を取り扱う際と同様の情報管理が行われる必要がある。

1.2 マイ・タイムラインの検討

マイ・タイムラインは、住民一人ひとりが自ら考え、自ら検討することが重要であり、マイ・タイムラインの検討主体は住民一人ひとりを基本とする。

市町等の行政機関は、住民が自らマイ・タイムラインを検討する材料の提供や環境の整備に注力することが望ましい。

【解説】

一口に住民と言っても、その置かれている環境はそれぞれであり、例えば、家族構成一つをとって見ても、単身の世帯もあれば、高齢者がいる世帯や乳幼児がいる世帯もあり、洪水からの避難方法は異なってくる。また、例えば、農家の方は台風接近前に見回りを済ませておくなど、職業によっても避難に向けた準備事項が異なってくる。家族構成、職業、常用薬等の必需品、立ち退き避難が必要か否か、自宅から避難所までの距離、避難のスピード等、避難を左右する要素は住民一人ひとりで異なる。

マイ・タイムラインの検討に当たっては、住民一人ひとりが、自分自身の置かれている環境を踏まえ、自分自身に合った避難を自ら検討することが重要である。それにより、住民一人ひとりが洪水を「我がこと」として捉え、洪水時になすべきことや洪水発生前に準備しておくべきことを具体的に考え、それらを自分のペースで行動に移せるよう、整理することができる。

そのため、マイ・タイムライン検討の主体はあくまで住民一人ひとりであり、市町等の行政機関は、マイ・タイムライン検討の材料を提供することや環境を整備することに注力することが望ましい。そのため、マイ・タイムラインの事例を配布するようなことは、避けることが望ましく、仮に配布する場合であっても、その事例と自分自身の相違点などを住民が自ら考えるように取り組むことが望ましい。

1.3 マイ・タイムラインの検討過程

マイ・タイムラインの検討過程では、住民一人ひとりが、自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、マイ・タイムラインを作成した時には、いわば「自分の逃げ方」を手に入れられているように取り組んでいくことが重要である。

【解説】

マイ・タイムラインの検討過程では、住民一人ひとりが、自分自身の置かれている環境を再認識し、自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握することが望ましい。一連の検討を経てマイ・タイムラインを作成した時には、参加した住民が、いわば「自分の逃げ方」を手に入れられているように取り組んでいくことが重要である。

また、洪水は自然現象であるため、マイ・タイムラインを一度作成すれば常に安全ということではなく、その都度、台風・降雨・河川の状況等を考慮して判断しなければならないことにも留意しておく必要があることから、マイ・タイムラインに盛り込まれたどの防災行動で台風・降雨・河川の状況等が把握できるのかを知っておくことが重要である。

そのため、マイ・タイムラインの検討過程では、「自分たちの住んでいる地区の洪水のリスクを知ること」、「洪水時に得られる情報を知ること」、「洪水時の自らの行動を想定しておくこと」等について、知識を得るように進めることが望ましい。また、これらの事項について、住民が自ら「考える」ことによって、洪水の進行を想定することができ、実際の洪水時の行動力を強化することができると思う。

これらの事項を検討しながら、マイ・タイムラインを作成できる教材として「マイ・タイムラインノート」を提案しており、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所のホームページからダウンロードが可能である（URL：<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>）。

なお、マイ・タイムラインノートの各ページを進める際に、住民に考えていただくポイントと説明の例等を本手引きの「2.マイ・タイムラインノートについて」で詳述しているため、参考にされたい。

また、「自分たちの住んでいる地区の洪水のリスクを知ること」や「洪水時に得られる情報を知ること」、「洪水時の自らの行動を想定しておくこと」などについて検討を進め、最後にマイ・タイムラインを作成するまでの時間のかけ方については、住民の理解度に合わせて調整していくことが望ましい。

1.4 マイ・タイムライン検討会の開催

マイ・タイムラインの検討主体は、住民一人ひとりが基本であるが、地区の住民が集まった「マイ・タイムライン検討会」を開催し、隣近所の住民等と意見交換をしつつ検討を進めることで、「自分の逃げ方」を客観的に見つめなおすことができるだけでなく、地域としての防災力向上を図ることができる。

なお、検討会の開催等には、マイ・タイムラインの検討過程で個人情報扱われる可能性が高いことに十分注意し、適切な情報管理が行われる必要がある。

【解説】

前述のとおり、マイ・タイムラインの検討は、住民一人ひとりが自分自身の置かれている環境を踏まえ、自分自身に合った避難を自ら検討することを基本としている。

しかしながら、同様にマイ・タイムラインの検討を進めている他者と意見交換をすることにより、一人では気づけなかった「備え」や「避難行動のポイント」を知ることができるとともに、自分自身のマイ・タイムラインを客観的に見つめなおすことができ、マイ・タイムラインの検討をより深めることができる。

そのため、同じ地区に住んでいるなど、置かれている環境が比較的似ている住民が集まった「マイ・タイムライン検討会」を開催し、複数の方が意見交換をしつつマイ・タイムラインの検討を進めることは、非常に有効である。また、検討の過程で、同地区の方に相談すること等により、個々の住民が持つ課題を地区で共有することができ、その解決策の立案にまで検討が及べば、互助の意識が芽生えることから、地域の防災力の向上にも繋がることとなる。

検討会の規模については、日常的に顔を合わせるグループで行うことが活発な意見交換に繋がると考えられることから、平時から行われている町内会活動の状況等を踏まえて設定することが考えられる。また、検討会みの開催では、検討が一過性のものとなる恐れもあるため、地区で行う行事にあわせて検討会を開催するなど、持続的な検討が可能となる工夫を講じることも重要であると考えられる。

また、検討会には、地区の住民だけでなく、市町、河川管理者、气象台、警察、消防、防災に関して知識を有する者が参加することにより、より効果的な検討が可能になると考えられる。

なお、マイ・タイムラインの検討に際しては、検討主体である住民本人やその家族に関する個人情報が扱われる可能性が高いことから、市町で個人情報を取り扱う際と同様の情報管理が行われる必要がある。また、検討会の開催等にも、この点に十分な注意を払い、適切な情報管理が行われる必要がある。

事例 隣保単位でのマイ・タイムラインの検討事例

隣保単位の住民でグループワーク形式による意見交換等を実施し、マイ・タイムラインの検討を実施した。



写真 1 隣保単位での意見交換の様子

1.5 マイ・タイムラインの検討によって得られるもの

マイ・タイムラインを検討・作成することによって、次のような成果が得られると想定される。

- 住民が自宅周辺のリスクを認識することができる
- 住民が自分自身や家族が逃げるタイミングを整理することができる
- 地域のコミュニケーションの輪が広がる(検討会方式で実施する場合)
- マイ・タイムラインからのフィードバックで市町のタイムラインを充実できる
- 自治会、自主防災組織等の共助の取り組みを考えるきっかけになり得る

【解説】

マイ・タイムラインを検討・作成した住民は、検討の過程で、自宅周辺が浸水するか否か、過去に浸水が発生しているか否か、地形や土地の成り立ちなどの情報に接することができ、これにより、自宅周辺のリスクを認識することができる。

また、家族構成や常用薬などの必需品、避難先や避難に要する時間などを順に検討していくことから、自分自身や家族が逃げるタイミングを整理することができる。

そして、1.4で述べたような検討会を実施する場合は、意見交換をしつつマイ・タイムラインの検討を進めることになることから、地域のコミュニケーションの輪が広がる。

一方、市町にとっては、マイ・タイムラインの検討を通じて、住民の具体的な避難行動を知ることができることから、それらの住民の行動を踏まえて、よりの確に住民避難を支援できるように行政側のタイムラインを充実することが可能となる。

また、行政だけでは担いきれない防災行動の必要性等が明確になれば、自治会や自主防災組織等が住民避難を支援するといった、共助の取り組みを考えるきっかけにもなり得る。

2 マイ・タイムラインノートを用いた検討

2.1 マイ・タイムラインノートについて

マイ・タイムラインノートは、地形の特徴や過去の洪水といった自宅周辺のリスク、洪水発生時に得られる情報などのマイ・タイムラインの検討に当たって抑えておくべき情報を「知る」ことから始め、そこから「気づく」ことや自分自身に置き換えて「考える」ことを記入していくことで、洪水発生時に自分自身がとるべき防災行動を整理する形で編集している。

I. 「知る」：マイ・タイムラインの検討に当たって抑えておくべき情報を記載している。メモ欄には、初めて知ったことや驚いたこと、大切だと思ったことが記入されることを想定している。

II. 「気づく」：「知る」を通じて得られた知識やメモした事柄を踏まえ、感じたことを記入する。検討会を開催する場合は、意見交換によって理解を深めることを想定している。

III. 「考える」：「知る」や「気づく」を踏まえ、自分自身の自宅の状況や家族の構成に置き換えて、安全に避難するために必要と考えることを記入する。

この流れに沿って整理した防災行動を時系列的にとりまとめることによって、最終的に一人ひとりのマイ・タイムラインを作成することができる。

【解説】

マイ・タイムラインの検討過程では、「自分たちの住んでいる地区の洪水のリスクを知ること」、「洪水時に得られる情報を知ること」、「洪水時の自らの行動を想定しておくこと」等について、知識を得るように進めることが望ましいが、それらの内容を検討しながら、マイ・タイムラインを作成できる教材としてマイ・タイムラインノートを準備している。

マイ・タイムラインノートは、地形の特徴や過去の洪水といった自宅周辺のリスク、洪水発生時に得られる情報などのマイ・タイムラインの検討に当たって抑えておくべき情報を「知る」ことから始め、そこから「気づく」ことや自分自身に置き換えて「考える」ことを記入していくことで、洪水発生時に自分自身がとるべき防災行動を整理することができるよう編集しており、これを活用することにより、住民一人ひとりのマイ・タイムライン検討が促進されるものと考えている。

「知る」、「気づく」及び「考える」の各項目のねらいは、以下に示すとおりである。

I. 「知る」：マイ・タイムラインの検討に当たって抑えておくべき情報を記載している。メモ欄には、初めて知ったことや驚いたこと、大切だと思ったことが記入されることを想定している。インターネット等を活用して、調べたことなどを記入することも有効である。

II. 「気づく」：「知る」を通じて得られた知識やメモした事柄を踏まえ、感じたことを記入する。検討会を開催する場合は、意見交換によって理解を深めることを想定している。一度、マイ・タイムラインを作成した後にこの項目を振り返ると、自分自身の心境や知識の変化（成長）が確認できる可能性がある。

Ⅲ. 「考える」: 「知る」や「気づく」を踏まえ、自分自身の自宅の状況や家族の構成に置き換えて、安全に避難するために必要と考えることを記入する。自分自身が置かれている環境が変化した場合は、この項目を再度見直し、マイ・タイムラインの修正・再検討を行うことが有効である。

マイ・タイムラインノートには、検討している方の自宅周辺に素材を差し替えることを想定しているページがあり、「2.2 マイ・タイムラインノートの構成」にて詳述している。

また、その素材は、以下のURLにおいて、ダウンロードできる。

URL : <http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>

2.2 マイ・タイムラインノートの構成

マイ・タイムラインノートは、以下の3つのSTEPで構成している。

【STEP1】：自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る

【STEP2】：洪水時に得られる情報を知る／タイムラインの考え方を知る

【STEP3】：マイ・タイムラインの作成

なお、マイ・タイムラインノートを用いて検討するマイ・タイムラインは基礎的なものであり、実際の洪水に応じた応用動作が想定されることにも留意が必要である。

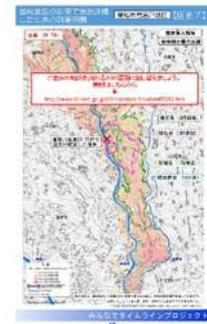
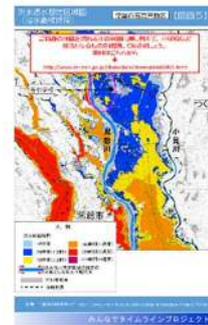
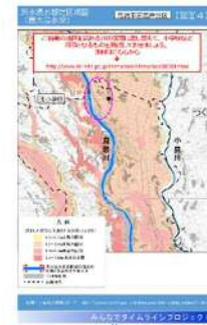
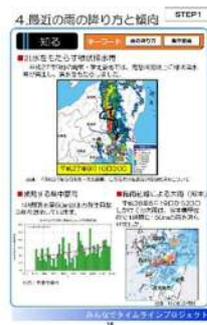
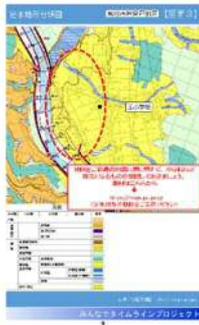
【解説】

マイ・タイムラインの検討過程では、「自分たちの住んでいる地区の洪水のリスクを知ること」、「洪水時に得られる情報を知ること」、「洪水時の自らの行動を想定しておくこと」等について、知識を得るように進めることが望ましい。

そのため、マイ・タイムラインノートは、以下に示す。3つのSTEPで構成している。

STEP1：自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る



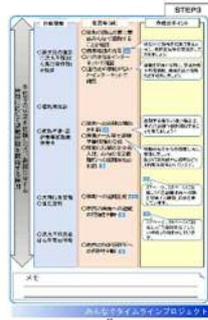


5. 「想定最大規模の雨」で川が氾濫したら

5. 「想定最大規模の雨」で川が氾濫したら



STEP3 : マイ・タイムラインの作成



なお、マイ・タイムラインノートを用いて検討するマイ・タイムラインは基礎的なものであり、例えば、洪水が発生する時間帯によってはさらに早めの避難が必要になるなど、実際の洪水に応じた応用動作が想定されることにも留意が必要である。

2.3 マイ・タイムラインノートを用いた検討会の運営

マイ・タイムラインノートを活用してマイ・タイムライン検討会を開催する場合は、検討会に参加している行政機関の職員や防災に関して知識を有する者が、マイ・タイムラインノートを解説する形で検討会を運営することで、より効果的にマイ・タイムラインの検討を進めることができる。

その際、次頁以降に示すノート各ページのねらいやポイントを参考に運営されることが望ましい。

【解説】

1.4 で述べたマイ・タイムライン検討会を設置し、マイ・タイムラインノートを活用して運営する場合は、検討会に参加している市町、河川管理者、気象台、警察、消防、防災に関して知識を有する者が、マイ・タイムラインノートを解説する形で運営することで、より効果的にマイ・タイムラインの検討を進めることができる。

なお、解説に当たる者の専門分野に応じて、複数の者で役割分担して解説することも有効であると考えられる。

また、マイ・タイムラインノートの STEP 2 及び STEP 3 については、検討している住民同士で意見交換をすることによってより理解が深まると考えられることから、ファシリテーターを設けてグループワークを行うことが望ましい。このファシリテーターは、行政機関の職員や防災に関して知識を有する者が担うことも考えられるが、住民の積極的な発言を促すために住民の中から選出することも有効である。

次頁以降に、マイ・タイムラインノートの各ページに対し、「このページでのねらい」や「ポイント」、さらにはそのページを解説する際の「説明する際のシナリオ（例）」やモデル地区の検討において実際に書き込まれた事例等を記載しており、これらを参考に運営されることが望ましい。

なお、検討会を実施する地区の特徴等に応じて、解説にアレンジを加えることを妨げるものではなく、住民が継続的に参加されるよう工夫しつつ運営されることが望ましい。

また、検討会形式をとらず、住民一人ひとりがそれぞれでマイ・タイムラインの検討を進める場合にも、次頁以降の各ページにおけるねらいやポイントを参考に、検討が進められることを期待する。

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムラインノートをご自身及びご家族のノートとして活用してもらうことを意識してもらう。

■ポイント

- ・ご自身のお名前の他に、市町村名や河川名、ご家族の状況を記入していただきますよう。

マイ・タイムライン ノート

名前

市町名は、地区名や自治会名等に適宜修正してお使いください。

| | |
|-----|--|
| 市町名 | |
|-----|--|

| | |
|-----|--|
| 河川名 | |
|-----|--|

| 続柄 | 名 前 |
|----|-----|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

家族全員を記入しましょう。



みんなでタイムラインプロジェクト

■説明する際のシナリオ（例）

- ・まずは、ご自身のお名前を書きましょう。
- ・次に、お住まいの市町村名と検討の対象とする河川名を書きましょう。
- ・一緒に住んでいるご家族がいる方は、ご家族全員のお名前と続柄を書きましょう。

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムライン検討に当たっての注意事項やマイ・タイムラインノートの使用方法について確認してもらう。

マイ・タイムラインについて

① **マイ・タイムラインとは**

「マイ・タイムライン」は住民一人ひとりのタイムラインであり、台風の接近によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものです。

時間的な制約が厳しい洪水発生時に、行動のチェックリストとして、また判断のサポートツールとして、効果を発揮するものと考えています。

しかしながら洪水は自然現象であるため、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではなく、その都度、台風・降雨・河川の状態等を考慮して判断しなければならないことにも留意しておく必要があります。マイ・タイムラインに盛り込まれたどの防災行動で台風・降雨・河川の状態等を把握できるのかを知っておくことも重要です。

検討の過程で、住民一人ひとりが、自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、マイ・タイムライン作成時には、いわば「自分の逃げ方」を手に入れられるように取り組んでいくこととしています。

② **マイ・タイムラインノートとは**

マイ・タイムラインの検討は、「マイ・タイムラインノート」に沿って行います。ノートは、地形の特徴や過去の洪水といった自宅周辺のリスク、洪水発生時に得られる情報などのマイ・タイムラインの検討に当たって抑えておくべき情報を「知る」ことから始め、そこから「気づく」ことや自分自身に置き換えて「考える」ことを記入していくことで、洪水発生時に自分自身がとるべき防災行動を整理する形で編集しています。そして、整理した防災行動を時系列的にとりまとめることによって、最終的に一人ひとりのマイ・タイムラインが作成できることとなります。

ノートは以下の3つの考え方で構成しています。

- I. 「知る」：マイ・タイムラインの検討に当たって抑えておくべき情報を記載しております。メモ欄には、初めて知ったことや驚いたこと、大切だと思ったことを記入してください。
- II. 「気づく」：「知る」を通じて得られた知識やメモした事柄を踏まえ、感じたことを記入してください。
- III. 「考える」：「知る」や「気づく」を踏まえ、自分自身の自宅の状況や家族の構成に置き換えて、安全に避難するために必要と考えることを記入してください。

③ **マイ・タイムラインノートの作成後**

今回検討するマイ・タイムラインは基礎的なものであり、例えば、洪水が発生する時間帯によってはさらに早めの避難が必要になるなど、実際の洪水時を想定した応用動作が想定されます。今後、家族や地域で話し合うなどし、防災行動を追加していくことも考えられます。

またマイ・タイムラインは、一度作ったらおしまいというのではなく、自分自身の置かれている環境の変化に応じて変更していくことが望ましいと考えられます。例えば、家族が増えたとき、職場や学校が変わったときなど、あらためてノートを見直して、必要な防災行動を整理していくことが望ましいと考えられます。

来たるべき洪水に備えて、マイ・タイムラインを活用し、逃げ遅れゼロに向けてさらなる地域の取り組みが積み重ねられることを期待しています。

■ポイント

- ・マイ・タイムラインの性格を確認します。
- ・マイ・タイムラインノートの考え方を確認します。
- ・マイ・タイムラインを作成した後の取り組みを確認します。

みんなでタイムラインプロジェクト

■説明する際のシナリオ（例）

- ・マイ・タイムラインの検討に入る前に、マイ・タイムラインやこのノートについて確認しておきましょう。

目次

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムライン検討の流れを確認してもらう。

■ポイント

- ・マイ・タイムラインノートでは、3つのSTEPで検討を進めます。
- ・検討の過程で防災知識を身につけられるような構成としています。

目次

| 各段階のテーマ | 項目 | ページ |
|---|------------------------|-------|
| 【STEP1】 ・自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る | はじめに | 1 |
| | 1.地区の特性 | 2~3 |
| | 2.過去の洪水から学ぶ | 4~5 |
| | 3.地形の特徴から学ぶ | 6~9 |
| | 4.最近の雨の降り方と傾向 | 10~11 |
| 【STEP2】 ・洪水時に得られる情報を知る ・タイムラインの考え方を知る | 5.「想定最大規模の雨」で鬼怒川が氾濫したら | 12~21 |
| | 6.洪水時に得られる情報と読み解き方 | 22~25 |
| | 7.タイムラインの考え方 | 26~29 |
| 【STEP3】 マイ・タイムラインの作成 | 8.洪水時の自らの行動を想定 | 30~39 |
| | 9.マイ・タイムラインの作成 | 40~43 |

みんなでタイムラインプロジェクト

■説明する際のシナリオ（例）

- ・目次をご覧ください。マイ・タイムラインの検討は3つのSTEPで行います。
- ・STEP1では、「自分たちの住んでいる地区の洪水のリスクを知る」ことです。
- ・その後、STEP2「洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る」、STEP3「マイ・タイムラインの作成」へと進んでまいります。

■このページでのねらい

- ・過去に経験した洪水を思い出してもらう。

はじめに

STEP 1

■過去に経験した洪水を振り返っておきましょう

過去に経験した洪水とその時のあなたの行動を振り返っておきましょう。



①過去に洪水を経験したことがありますか？

経験したことがある。記載例) ・昭和△△年 台風〇〇号
・ _____ 年 _____ 年

経験したことがない。

②過去に経験した洪水で、あなたは避難したことがありますか？

避難した

避難しようとしたが、できなかった

避難しなかった (避難しなかった理由: _____)

③避難した方にお聞きます。どこに避難しましたか？

④避難場所へ到着したのはいつ頃ですか？該当するものに○をつけてみましょう。また、家から避難所までどのくらいの時間がかかりました？

朝・昼・夜・夜中 かった時間 _____ 分

⑤避難の準備を開始してから家を出るまでどのくらいの時間かかりましたか？

_____ 時間 _____ 分

⑥避難のきっかけは？

⑦避難に関して、過去の洪水を経験して覚えておきたいこと、学んだことや工夫したことがあれば、メモしておきましょう。

家財について・・・

みんなでタイムラインプロジェクト

1

■ポイント

・ここで記載していただく情報は検討前のいわば初期値です。マイ・タイムラインの検討によってどのようになるか、検討者の意識の変化が確認できます。

・水害では、車やアルバムなど家財の被害も多いので、工夫した点を書いていただきます。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・過去に経験した洪水について振り返るために、①～⑦までの内容について書いてみましょう。
- ・複数の洪水を経験したことがある方は、最も最近の洪水を思い出して書いてみましょう。
- ・時間を書く欄がありますが、正確に覚えていない方はだいたいで結構ですので、書いてみましょう。

STEP1

このページでのねらい

- ・ご自身の地区について知ってもらい、「自助」と「共助」につなげる。
- ・ノートの最初のページであるため、書き込むことへの準備体操として利用してもらう。

■ポイント

※共助を想像

- ・同じ地区に、避難の際に助けを要する人がいるかもしれないことを想像していただくことが大切です。

【記載例】

- ・65歳以上人口が思っていたより多い。
- ・要介護の人を見捨てることはできないため、自治区として連帯システムを作る必要がある。

1.地区の特性

STEP 1

知る

■人口・高齢者の割合

メモ

| | |
|------------------|------|
| 市町全域の人口： | 世帯数： |
| 市町全域の65歳以上人口の割合： | % |
| 市町全域の外国人人口の割合： | % |
| 地区の人口： | 世帯数： |
| 地区の65歳以上人口の割合： | % |
| 地区の外国人人口の割合： | % |

■地区の位置・自宅の位置

図面1で、自宅の位置に○印を付けましょう。



気づく

みんなでタイムラインプロジェクト

2

■説明する際のシナリオ（例）

- ・常総市全体や若宮戸地区の人口などについてお話します。書き込んでください。
- ・常総市の人口は〇〇人。世帯数は△△世帯、若宮戸地区の人口は〇〇人、世帯数は□□世帯。常総市の外国人人口の割合は〇△%です。ちなみに人数は〇□人です。

※自治区や学校区単位での災害時要支援者の人数等を把握しておくことも重要です。

STEP1

■このページでのねらい

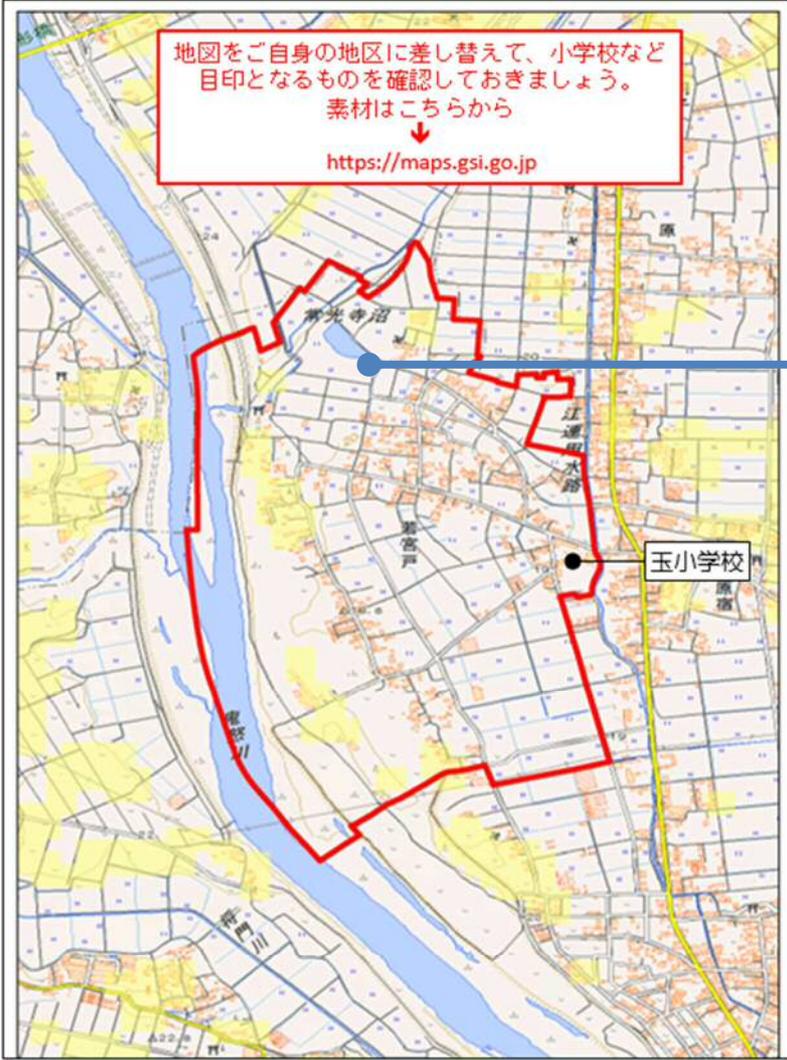
- ・ご自身の地区について知ってもらい、「わがこと」感を意識してもらう。

地形図
常総市若宮戸地区 【図面1】

地図をご自身の地区に差し替えて、小学校など
目印となるものを確認しておきましょう。
素材はこちらから

↓

<https://maps.gsi.go.jp>



出典：地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp>

みんなでタイムラインプロジェクト

3

■ポイント

- ・自治区におけるご自宅の位置を再確認していただきます。
- ・そのため、地図は自宅と道路等が見える縮尺で作成しましょう。
- ・道路が見えることで、避難経路を確認する際にも活用できます。
- ・近くの溢れそうな川がわかるようにしておきましょう。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ご自宅に丸をつけてみましょう。
- ・昔から住んでいて「こんなこと知っている」ということがあれば、教えてください。

STEP1

■このページでのねらい

- ・過去の洪水を知り、ご自身の地区の水害リスクを把握してもらい、今後も起きるかもしれないことを実感してもらう。

■ポイント

過去の記録は、県や自治体の水害誌や河川事務所の記録等から調査が可能です

近年の洪水であれば、国土地理院が航空写真を撮影しているかもしれません。地理院 web で確認しましょう。

2.過去の洪水から学ぶ

STEP 1

知る

キーワード 過去の洪水

■鬼怒川・小貝川で堤防が決壊した場所
平成27年9月関東・東北豪雨以前にも堤防が決壊しています。同時に複数の地点で決壊することもあります。

| | | |
|-----|-----------|---------|
| 鬼怒川 | 常総市 高野 | 昭和13年7月 |
| | さくら市 大中 | 昭和13年9月 |
| | 高岡市 大蓮泉 | 昭和24年9月 |
| | さくら市 大中 | 昭和24年9月 |
| | 宇都宮市 下小倉町 | 昭和24年9月 |

| | | |
|-----|------------|---------|
| 小貝川 | つくばみらい市 押砂 | 昭和2年9月 |
| | 龍ヶ崎市 大留町 | 昭和10年9月 |
| | 下妻市 柳原 | 昭和13年7月 |
| | 龍ヶ崎市 小連寺谷町 | 昭和16年7月 |
| | 取手市 大留 | 昭和25年9月 |
| | 龍ヶ崎市 大留町 | 昭和56年8月 |
| | 筑西市 赤浜 | 昭和61年8月 |
| | 常総市 本堂田 | 昭和61年8月 |



■平成27年9月 関東・東北豪雨の浸水範囲
常総市上三坂地先の堤防決壊や若宮戸地先の溢水等により、常総市の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水しました。



みんなでタイムラインプロジェクト

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ここで知っていただきたいことは、ズバリ、「鬼怒川と小貝川に挟まれた常総市は洪水の常襲地帯である」ということです。
- ・上半分に昭和の堤防決壊を表と地図で示しましたが、ご覧のとおりたびたび決壊しています。下には関東・東北豪雨の浸水範囲を入れてあります。上三坂の堤防決壊や若宮戸の溢水（堤防のないところから水が溢れること）により、市内の約1/3が浸水しました。

■このページでのねらい

- ・住民の方だからこそ知っている洪水やそのエピソード等を記載し、他の住民の方と共有することで、地域の輪を広げるための序章とする。

STEP 1

◇過去の洪水について他に知っていることがあれば、メモしておきましょう。

メモ

気づく

みんなでタイムラインプロジェクト

5

■ポイント

【記載例】

- ・常総市本豊田の決壊では自宅を避難所として親戚を受け入れた。
- ・昭和13年白畑地区で水が溢れた。

※地域の住民だからこそ知っている、過去の洪水時の情報の共有に努めましょう。

【記載例】

- ・決壊ポイントから予想以上に広範囲で被害がでた。
- ・鬼怒川の下流で水が氾濫すると若宮戸の自宅まで水が来ること
- ・洪水が多いのは元々知っていた

■説明する際のシナリオ（例）

- ・メモ欄には、例えば、「昔、おじいさんからこんなこと聞いた」とか、過去の洪水についてご存知のことがあれば、メモしておいてください。
- ・そして、感想などをオレンジの「気づく」へご記入ください。

STEP1

■このページでのねらい

- ・ご自身の地区の地形の特徴を学んでもらう。
- ・ご自身の地区と川との標高から水が集まりやすい地区であるかどうかなど、知ってもらおう。

■ポイント

・川と住んでいる地区の横断面図を示すことで、低いところに住んでいることが理解しやすい。

【記載例】

・要介護の人を見捨てることはできないため、自治区として連帯システムを作る必要がある。

3.地形の特徴から学ぶ

STEP1

知る

キーワード

低い土地

旧河道

■鬼怒川と小貝川が流れる〇〇市

地図と断面図をご自身の地区に差し替えてみましょう。素材はこちらから

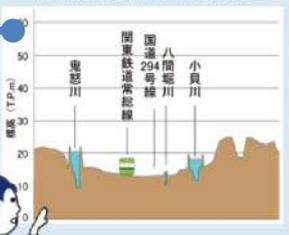
<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00285.html>

断面

輪切りにすると



利根川との合流点から20km付近



■地形（標高図）

周辺と比べて標高の低い場所は、水が集まりやすく、氾濫した場合、水位が高くなったり、流速が早くなりやすい場所です。

水は高いところから低いところへ流れます。図面2で確認しましょう。



メモ

みんなでタイムラインプロジェクト

6

■説明する際のシナリオ（例）

- ・地形の視点からみてみましょう。
- ・鬼怒川と小貝川が流れるこの地域を輪切りにしてみます。右上の図面のとおり、皆さんが住んでいる地区は鬼怒川と小貝川に挟まれた窪地になっています。
- ・水は高いところから低いところへ流れます。ということは、この地域は水が集まりやすい地域であるということがわかります。

STEP1

■このページでのねらい

- ・標高図というものがあることを知ってもらう。
- ・ご自身の地区が高いところか低いところか知ってもらい、洪水の際に危険な場所かどうか想像してもらう。

■ポイント

- ・国土地理院のホームページから無料で使用できます。
- ・ただし、ここで示している凡例は、独自に加工しています。
- ・赤系の色は標高が高く、青系の色は標高が低いことを示すため、川から水が溢れた場合は、赤系から青系の色の方に水が流れていきます。
- ・川沿いが赤いのは、堤防により地盤が高いためであり、避難場所としては不適です。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・水は赤いところから緑のほうへ流れます。〇〇地区の周りはどうなっているでしょうか。気づいたこと、驚いたことなどがあれば、前ページにメモ欄があるので、メモしておきましょう。
- ・また、川沿いが赤くなっていますが、これは堤防により地盤高が高くなっているため避難場所としては、不適です。

STEP1

■このページでのねらい

- ・ご自身の地区の特性をさらに詳しく知るために、治水地形分類図を使うと土地の成り立ちがわかることを知ってもらう。

■ポイント

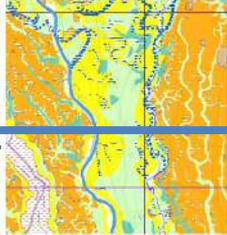
- ・国土地理院のホームページから無料で入手できます。
- ・洪水と関連の深い微地形を、成り立ちごとに分類して示しています。

STEP 1

もっと詳しく知りたい

■地形（治水地形分類図） 出典：地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp>)

昔、川が流れていた場所（旧河道）は、土地が低く、水が集まりやすいため注意が必要です。



| 凡例 | | | |
|-------|-----------|---------|----|
| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 記号 |
| 山地 | 段丘 | | |
| | 崖(段丘縁) | | |
| | 深い谷 | | |
| 集水域 | 扇状地 | | |
| | 沖積平野 | | |
| 低地 | 後背湿地 | | |
| | 物置地(自然堤防) | | |
| 河川 | 旧河道 | 旧河道(暫続) | |
| | 旧河道(不継続) | | |
| | 運河 | | |
| 砂洲・砂丘 | | | |

図面3で確認しましょう。

【記載例】

- ・元々川が流れていた場所は、川が氾濫したら水が流れてくる可能性が高いので、避難する時には注意が必要。
- ・雨が降るといつも大きな水たまりができるところがあるが、そこが旧河道だったことが分かった。

気づく

みんなでタイムラインプロジェクト

8

■説明する際のシナリオ（例）

- ・「もっと詳しく知りたい」とあるように、ここでは洪水が起きやすい地形について、さらに深く見ていきましょう。
- ・「治水地形分類図」というのは、土地の成り立ちを川との関係で見ることができる地図です。例えば、今はないけれど、昔は川が流れていたような場所は、川が氾濫した時には水が流れてくる可能性が高いです。

STEP1

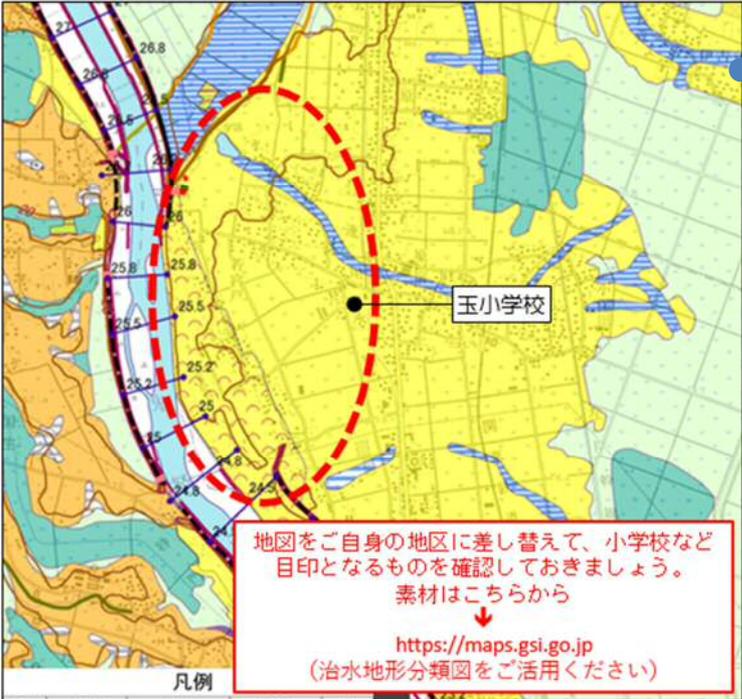
25

■このページでのねらい

- ・治水地形分類図により、ご自身の地区の地形の成り立ちをさらに詳しく知ってもらう。

治水地形分類図

常総市若宮戸地区 【図面3】



| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 細分類 | 記号 | |
|-----|--------|------|-----------|-------|--|
| 山地 | 台地 | 段丘 | 段丘面 | | |
| | | | 崖(段丘崖) | | |
| | | | 溝い谷 | | |
| 低地 | 山麓堆積地形 | 扇状地 | 扇状地 | | |
| | | | 氾濫平野 | | |
| | 扇状地 | 氾濫平野 | 後背湿地 | | |
| | | | 微高地(自然堤防) | | |
| | 扇状地 | 氾濫平野 | 旧河道 | | |
| | | | 旧河道(明瞭) | | |
| | 扇状地 | 氾濫平野 | 旧河道(不明瞭) | | |
| | | | 落堀 | | |
| | 砂州・砂丘 | | | 砂州・砂丘 | |

出典：地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp>

みんなでタイムラインプロジェクト

9

■ポイント

- ・自分の地区の中に、洪水リスクの高い場所があるか、ある場合はどこにあるかを地図から読みとります。
- ・低地の中でも、「後背湿地」や「旧河道」「落堀(オトボリとも呼ぶ)」などは、洪水被害を受けやすい場所です。
- ・このような場所が、避難所や避難経路にあると注意が必要です。
- ・さらに詳しく自分で調べたい場合は、ここから情報を入手できます。

■説明する際のシナリオ(例)

- ・〇〇地区の周りを見てみましょう。
- ・水色や水色に横線が入っているところは、「旧河道」です。昔、川が流れていた土地で、水がたまりやすいところです。
- ・〇〇地区は、ほとんど全体が「自然堤防」と分類されている微高地にあります。何本か、「旧河道」が通っていることが読みとれます。
- ・気づいたことや感じたことがあれば、前のページにメモ欄にメモしておきましょう。

STEP1

■このページでのねらい

- ・最近の雨の降り方が変わってきていることを知り、洪水のリスクが高まっていることを感じてもらう。

■ポイント

- ・鬼怒川流域を黒い枠で囲ってあります。この枠の内側に降った雨は、最後には鬼怒川に集まってくるという範囲です。
- ・上流部で、強い雨が長時間、降っていました。縦に伸びた線に見えるため「線状降水帯」と呼ばれています。
- ・紫～赤で、より強い雨が降っていることを示しています。
- ・ゲリラ豪雨と呼ばれる、短時間に強い雨が降る回数も増えています。
- ・平成28年には、熊本でも時間150ミリを記録しました。

4.最近の雨の降り方と傾向

STEP 1

知る

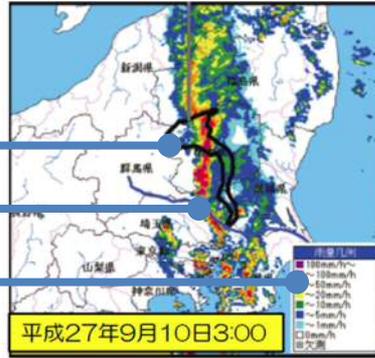
キーワード

雨の降り方

集中豪雨

■洪水をもたらす線状降水帯

平成27年9月の関東・東北豪雨では、鬼怒川流域上に線状降水帯が発生し、洪水をもたらしました。



出典：「平成27年9月関東・東北豪雨」に係る洪水被害及び復旧状況等について

■頻発する集中豪雨

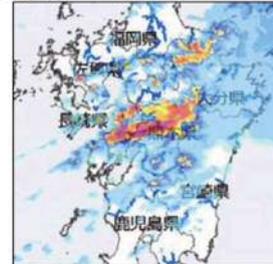
1時間降水量50mm以上の発生回数は年々増加しています。



出典：気象庁資料

■梅雨前線による大雨（熊本）

平成28年6月19日から23日にかけての大雨は、熊本県甲佐町で1時間に150mmの雨を降らせました。



出典：川の防災情報

みんなでタイムラインプロジェクト

10

■説明する際のシナリオ（例）

- ・地形の次は、雨の降り方をみてみましょう。
- ・最近雨の降り方が変わってきているなど感じている方も多いと思います。
- ・一昨年の関東・東北豪雨では、強い雨が長時間にわたって降り続けました。
- ・「ゲリラ豪雨」と呼ばれる、短時間に強い雨が降る現象も全国的に増えています。
- ・平成27年の大雨を越える雨が起らないとは言い切れません。

STEP1

■このページでのねらい

- ・雨の降り方について、天気予報などで使われる用語と、その様子を知ってもらう。

STEP 1

もっと詳しく知りたい

■雨の強さと降り方

| 1時間雨量 (mm) | 人の受ける イメージ | 人への影響 | 車に 乗っていて |
|---------------------|------------------------|-------------------|--------------------------------|
| 10以上20未満 やや強い雨 | ザーザーと降る | 地面からの跳ね返りで足元がぬれる | |
| 20以上30未満 強い雨 | どしゃ降り | 傘をさしていてもぬれる | ワイパーを早くしても見づらい |
| 30以上50未満 激しい雨 | バケツをひっくり返した様に降る | | 高速走行時車輪と路面の間に水膜が生じてブレーキが効かなくなる |
| 50以上80未満 非常に激しい雨 | 滝のように降る（ゴーゴーと降り続く） | 傘は全く役に立たなくなる。 | 車の運転は危険 |
| 80以上 猛烈な雨 | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる | | |

出典：気象庁リーフレット「雨と風（雨と風の階級表）」を加工して作成

メモ

気づく

みんなでタイムラインプロジェクト

■ポイント

- ・天気予報などで聞かれる1時間ごとの雨の量や「強い雨」などの表現が、体感としてどの程度の雨なのかを整理した表です。

【記載例】

- ・雨が強い時は、車で避難するのは危ない。
- ・車での避難を考えている時は、雨が強くなる前に動くことが必要。

【記載例】

- ・上流で強い雨が降ったら、必ず下流にも影響がある。
- ・地元だけでなく上流の雨量も気をつけることが必要。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・前のページでは、雨の量を「mm/h」で表現しています。これは1時間に降る雨の量のことです。
- ・天気予報などで、「強い雨」「猛烈な雨」という言葉で表現されているのを聞きます。それぞれ、どのくらいの雨の量なのか、体感としてどのような雨なのかを整理した表です。
- ・雨が強いと、車での避難にも危険が伴うことが分かります。避難を考えるときの参考にしてください。

STEP1

■このページでのねらい

- ・想定しうる最大の規模の雨が降ったとき、ご自身の地区や家がどのような状態になるのかを知ってもらう。
- ・避難行動を決める時に、浸水の深さだけでなく、水が引くまでの時間や家屋の倒壊が想定されるかどうかについて、気をつける必要があることを知ってもらう。

■ポイント

・「想定最大規模の雨」を示しています。

・氾濫が起きた時に、浸水がどこまで広がるのかと、深さを示した図です。

・色毎の深さをイメージして下さい。

・氾濫が起きた時に、水が引くまでにどのくらい時間がかかるかを示した図です。

5. 「想定最大規模の雨」で川が氾濫したら

STEP 1

知る

キーワード

浸水深

浸水継続時間

流速

家屋倒壊

到達時間

■想定最大規模の雨とは？

考えられる最大規模の雨です。鬼怒川では石井地点流域に、72時間総雨量669mmの雨を想定しています。

■洪水浸水想定区域図

想定最大規模の雨が降って、堤防が決壊した場合の、氾濫水が広がる範囲や浸水深、浸水継続時間等をシミュレーションにより想定した図です。

○浸水範囲及び浸水深

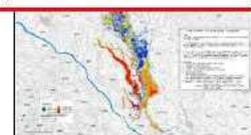
どこまで水が広がるか、またその時の最大の深さを示した図です。

○浸水継続時間

氾濫してきた水が引くまでに、どのくらいの時間がかかるかを示した図です。



ご自身の地区を流れる川の図面に差し替えましょう。
素材はこちらから
<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00003.html>



出典：下館河川事務所HP
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00003.html>)

みんなでタイムラインプロジェクト

12

■説明する際のシナリオ（例）

・雨の降り方の傾向をみると、平成27年を超える雨が起こらないとは言い切れませんでした。

ここでは、「5. 「想定最大規模の雨」で鬼怒川が氾濫したら」として、シミュレーションの結果をもとに、どんな状況になるのかを見ていきます。

・河川事務所のホームページでは、想定最大規模の雨が降った場合の浸水範囲と浸水の深さ、浸水の継続時間、水の流れる速さについての情報が公開されています。

STEP1

■このページでのねらい

- ・想定しうる最大の規模の雨が降ったとき、ご自身の地区や家がどのような状態になるのかを知ってもらう。
- ・避難行動を決める時に、浸水の深さだけではなく、水が引くまでの時間や家屋の倒壊が想定されるかどうかについて、気をつける必要があることを知ってもらう。

STEP 1

○家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）

氾濫した水が、家などの建物を壊したりする可能性のある範囲を示した図です。
この区域では、立ち退き避難の判断が必要になります。

出典：下館河川事務所HP
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00003.html>)



ご自身の地区を流れる川の図面に差し替えましょう。
素材はこちらから

↓

<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00003.html>

 図面4～6で確認しましょう。

◇あなたの住んでいる場所の浸水深は？
_____（図面4で確認しましょう）

◇あなたの住んでいる場所の浸水継続時間は？
_____（図面5で確認しましょう）

◇あなたの住んでいる場所は家屋倒壊等氾濫想定区域ですか？
はい いいえ （図面6で確認しましょう）

■ポイント

- ・堤防が決壊した時に、氾濫流の力によって家が壊される可能性がある範囲を示した図です。
- ・P14～16を確認して、自分が住んでいる場所の状況を確認します。

 **もっと詳しく知りたい**

■流速 氾濫水が非常に強い流れで押し寄せてきます。



国土交通省関東地方整備局のホームページで動画をみることができます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river_bousai0000101.html

提供：鬼怒川堤防調査委員会
(近隣住民の方から提供)

みんなでタイムラインプロジェクト

13

■説明する際のシナリオ（例）

- ・「家屋倒壊等氾濫想定区域」の図では、想定した雨が降って堤防が決壊した時に流れてく水の水の力で、家が壊されてしまう場所を確認できます。
- ・個々の家の堅牢さにもよりますが、この範囲に住んでいる方は、2階への避難では危険な可能性が高いということになるので、避難行動を考えるときの参考にしましょう。
- ・次のページから、〇〇地区周辺の図が載っています。自分の家の状況を、このページにまとめておきましょう。

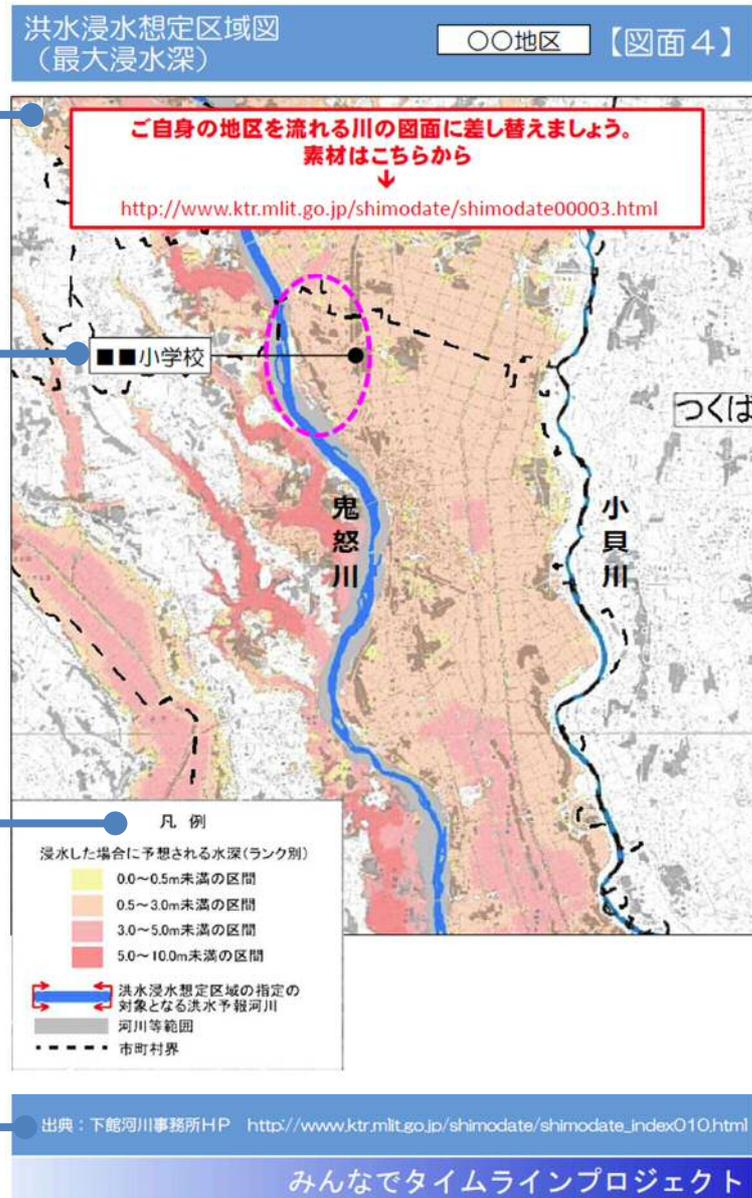
STEP1

■このページでのねらい

- ・決壊した時、氾濫水がどこまで広がり、どのくらいの深さになるのかを知ってもらう。
- ・ご自身の地区や家がどのような状況になるのかを知ってもらう。

■ポイント

- ・どこまで氾濫水が広がるのかを確認します。
- ・自分の家と自分の地区の避難所の状況を確認します。
- ・浸水した場合の深さを確認します。
- ・さらに詳しく自分で調べたい場合は、ここから情報を入手できます。



14

■説明する際のシナリオ(例)

- ・この図は、鬼怒川が決壊したとき、どの位の深さまで浸水するかを示したものです。赤い色が濃くなるほど、深くなることを示しています。
- ・自分の家の深さを確認して、13ページに書き込みましょう。また、どのくらいの深さなのかは、12ページ左下の図で確認できます。2階に逃げても水に浸かってしまうような深さの場合もあるので、逃げ方を考える参考にして下さい。
- ・これはあくまでも計算上の結果なので、色がついていない場所でも、状況によっては水が来る場合があります。色がついていない、イコール安全ということではないので、注意が必要です。

■このページでのねらい

- ・決壊した場合、氾濫水が引くまでにかかる時間を知ってもらう。
- ・浸水が深い場所などでは、水が引くまでに時間がかかるため、それを見込んだ避難行動や準備を考える必要があることを知ってもらう。

洪水浸水想定区域図
(浸水継続時間)

〇〇地区 【図面5】

ご自身の地区を流れる川の図面に差し替えてください。
素材はこちらから

<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00003.html>

凡例

| | |
|-----------|------------|
| 12時間 | 168時間(1週間) |
| 24時間(1日間) | 336時間(2週間) |
| 72時間(3日間) | 672時間(4週間) |

洪水浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川

河川等範囲

市町村界

出典：下館河川事務所HP http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate_Index010.html

みんなでタイムラインプロジェクト

■ポイント

- ・自分の家が浸水する場合、いつまで浸水が継続するのかを確認します。
- ・自分の地区の避難所の状況を確認します。
- ・浸水が継続する時間を確認します。
- ・さらに詳しく自分で調べたい場合は、ここから情報入手できます

■説明する際のシナリオ（例）

- ・浸水した場合、水はどのくらいで引くのでしょうか？15ページをご覧ください。
- ・例えば、オレンジの範囲だった場合は3日以上氾濫が引かないということです。例えば2階に逃げたとしても、トイレも使えない中で3日以上生活することになります。
- ・同じように、近くの避難所についても確認しておきましょう。
- ・自分の家の浸水継続時間を確認して、13ページに書き込みましょう。

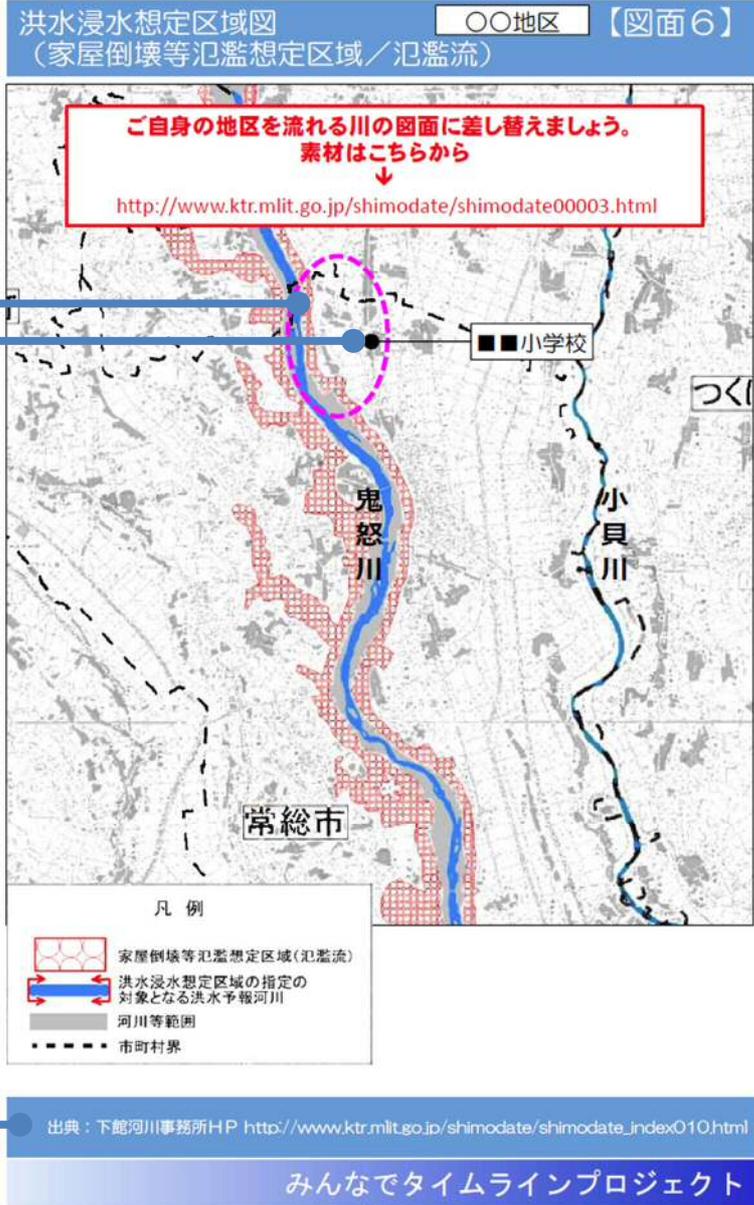
STEP1

■このページでのねらい

- ・流れてくる氾濫水の勢いが強い範囲を知ってもらう。

■ポイント

- ・自分の家が、氾濫した水により家屋が押し流される可能性がある場所かを確認します。
- ・自分の地区の避難所の状況や、避難ルートとして考えている経路の状況も合わせて確認しておきます。
- ・さらに詳しく自分で調べたい場合は、ここから情報を入手できます。



■説明する際のシナリオ（例）

- ・浸水深が浅くても、水の流れる勢いが強い場所は危険です。
- ・この図で赤くハッチングがされている範囲に家がある場合は、2階に避難しても家ごと押し流されてしまう可能性があり、危険です。
- ・また、避難所への移動中に氾濫が起きた場合は、この範囲は特に危険です。避難のタイミングを考える時の参考にしましょう。
- ・自分の家がこの範囲に入っているか確認して、13ページに書き込みましょう。

■このページでのねらい

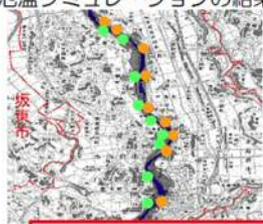
- ・決壊してから、どの位の時間で氾濫が到達するのかを知ってもらう。
- ・自宅から離れた場所で決壊しても、時間をかけて氾濫水が到達することがあることを知ってもらう。
- ・下流側で決壊した氾濫水が上流に向かってくる場合があることを知ってもらう。

STEP 1

📖 もっと詳しく知りたい

■氾濫水の到達時間（氾濫シミュレーション）
<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00241.html>

パソコンで、**下館河川事務所HP**にアクセスすると、想定破堤点毎の氾濫シミュレーションの結果を見ることができます。



➔

任意の
地点を
クリック



ご自身の地区を流れる川の図面に差し替えましょう。
素材はこちらから

↓

<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate00241.htm>



自宅の近くの堤防が決壊すると、氾濫水がただちに到達します。自宅から離れた場所で決壊しても、氾濫水は街の中を流れて到達する場合があります。図面7～9で到達時間を確認しましょう。

メモ

みんなでタイムラインプロジェクト

■ポイント

- ・ここから決壊した場合の氾濫シミュレーションの情報を入手できます。

【記載例】

- ・一番近くで決壊すると、自宅までの時間が短いことが分かった。情報収集をし、早い段階で避難をしておく必要がある。
- ・下流の方で決壊しても氾濫水が流れてくる可能性がある。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・鬼怒川が決壊してからどの位の時間で氾濫が到達するのでしょうか？
- ・決壊場所ごとの氾濫水の動きを、下館河川事務所のホームページで公開しています。
 自宅の近くを起点に、上流、下流側の決壊箇所を確認して、自宅まで氾濫水が来る範囲を確認しておく、いざという時の情報収集の役に立ちます。
- ・気づいたことや感じたことをメモ欄に書きとめておきましょう。

STEP1

34

STEP1

■このページでのねらい

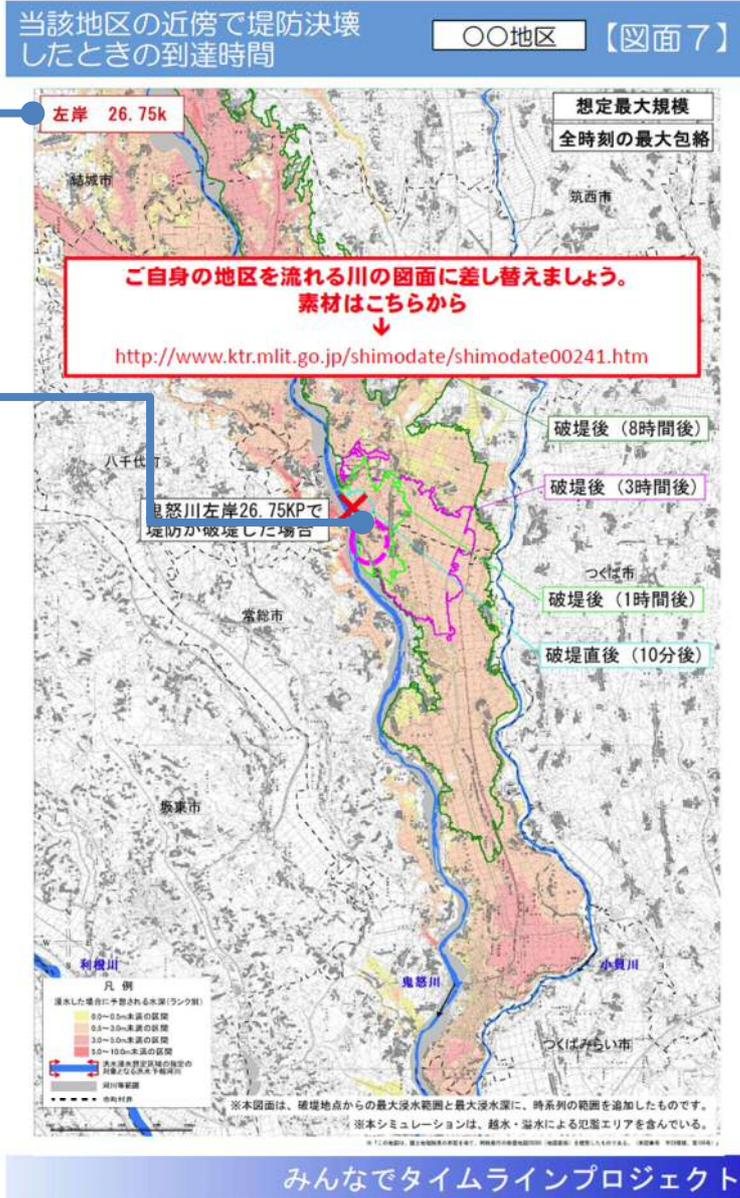
- ・自宅のすぐ近くで堤防が決壊した場合の氾濫水の到達時間を知ってもらう。
- ・最も早く氾濫水が到達する時間を知り、避難するタイミングを考えてもらう。

■ポイント

・〇〇地区から一番近い決壊地点の氾濫シミュレーションです。

・決壊箇所から氾濫水が到達する時間を確認できます。

・〇〇地区は1時間以内に氾濫水が到達することが分かります。



■説明する際のシナリオ（例）

- ・18ページの図は、〇〇地区に一番近い決壊箇所のシミュレーション結果です。
- ・この場所で決壊した場合、〇〇地区には1時間以内に氾濫水が到達することが分かります。
- ・決壊してから避難するのでは、危険そうですね。どのくらいのタイミングで避難を開始するべきかの参考にしましょう。

■このページでのねらい

- ・自宅から離れた場所で決壊しても、時間をかけて氾濫水が到達することがあることを知ってもらう。
- ・上流側で決壊した場合について確認をする。



■説明する際のシナリオ（例）

- ・上流側で決壊が起きたケースを見てみます。これは約3 km 上流で決壊した場合のシミュレーション結果です。
- ・すぐ近くで決壊した場合に比べて少し時間が遅いですが、○○地区にも氾濫水が到達することが分かります。
- ・時間で見ると3時間から8時間後の間です。避難行動を考えると、それほど時間に余裕があるとは言えません。

STEP1

■このページでのねらい

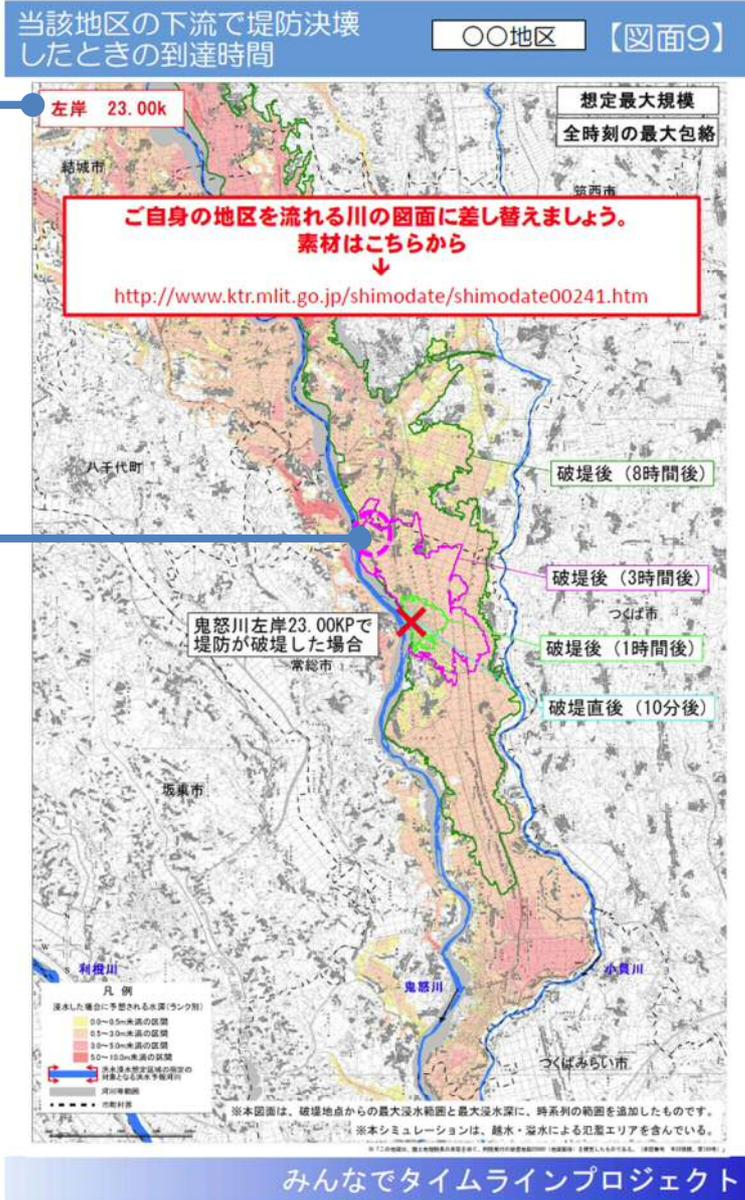
- ・自宅から離れた場所で決壊しても、時間をかけて氾濫水が到達することがあることを知ってもらう。

- ・下流側で決壊した場合について確認をする。

■ポイント

- ・〇〇地区から約3km下流側で決壊した場合です。

- ・この場所で決壊しても、〇〇地区へ氾濫水が到達することを確認します。
- ・決壊箇所から氾濫水が到達する時間が確認できます。
- ・氾濫水は約3時間後までに到達することが分かります。



■説明する際のシナリオ（例）

- ・下流側で決壊が起きたケースを見てみます。これは約3km下流で決壊した場合のシミュレーション結果です。
- ・すぐ近くで決壊した場合に比べて少し時間が遅いですが、下流側で決壊した場合でも、〇〇地区にも氾濫水が到達することが分かります。
- ・時間で見ると約3時間です。決壊してから避難をするのでは安全な避難ができない可能性があります。

STEP 2

■このページでのねらい

- ・洪水時に得られる情報について、気をつけるポイントを知ってもらう。
- ・洪水時に得られる情報の取得方法を知ってもらう。

■ポイント

・台風発生から緊急時までの洪水の進行に伴って、有効な情報内容とその取得方法が変化します。

STEP 2

6.洪水時に得られる情報と読み解き方

知る

キーワード

情報の種類

情報の取得手段

川の水位

■避難行動を判断する時に有効な情報
洪水時に得られる情報は、台風、雨、川、避難と様々です。これらは、時々刻々と変化します。洪水時は、最新の情報を集めて的確に判断しましょう。

| | 情報 | 気をつけるポイント |
|--------------|----------|---|
| 台風発生 水位上昇 | 台風に関する情報 | ・台風の大きさ ・台風の強さ ・台風の進路 |
| | 雨に関する情報 | ・雨量 ・雨の降っている地域（川の上流） ・今後の見通し |
| | 川に関する情報 | ・近くの川の水位 ・上流の川の水位（今後の見通し） ・はん濫の発生 |
| 緊急時 | 避難に関する情報 | ・避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急） ・避難所の開設情報 ・交通の状況 |

■情報を知る手段
洪水時は、テレビ、パソコン、スマートフォン、携帯電話など様々な手段で情報を収集することができます。

| | 情報 | 情報を知る主な手段 |
|--------------|----------|--|
| 台風発生 水位上昇 | 台風に関する情報 | ・テレビの天気予報 ・気象庁のホームページ |
| | 雨に関する情報 | ・テレビの天気予報 ・気象庁のホームページ |
| | 川に関する情報 | ・テレビのデータ放送 ・河川事務所のホームページ、SNS |
| 緊急時 | 避難に関する情報 | ・市のホームページ、SNS ・市の防災メール配信サービス ・県のホームページ、SNS ・交通機関のホームページ、SNS |

ホームページは普段から見て、慣れておきましょう。

みんなでタイムラインプロジェクト

22

■説明する際のシナリオ（例）

- ・洪水時にどのような情報が得られるのか、どのようにして知ることができるのか、確認していききたいと思います。
- ・上段からですが、この表には「避難するためにはどんな情報を知ればいいのか?」、「時々刻々と変化する中で何を気にすればいいのか?」を時間軸に沿ってまとめています。
- ・イメージしていただくと、台風が遠く太平洋で発生しまして、その後近づくにつれて雨が降り出し、その雨が集まって川の水位があがります、そして危険度が上がってくると避難という流れになります。端的に申し上げると、その順、つまり、台風、雨、川、避難の順に情報をとっていただくのがいいということです。
- ・下段の表には、その情報をどこで得られるか、主な手段を紹介しています。

STEP 2

■このページでのねらい

- ・洪水時に得られる情報の取得方法を知ってもらう。

STEP 2

もっと詳しく知りたい

■台風に関する情報

| | |
|-----------|---|
| 気象庁ホームページ | http://www.jma.go.jp/jp/tyoh/ |
|-----------|---|

テレビの天気予報や、パソコン、スマートフォン・携帯電話で、気象庁のホームページにアクセスすれば、**台風の位置や強さ、今後の台風の進路や暴風域等**を確認できます。

■雨に関する情報

| | |
|----------------------|---|
| 川の防災情報ホームページ | http://www.river.go.jp/ |
| 気象庁ホームページ | http://www.jma.go.jp/ |
| 下館河川事務所ホームページ | http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate_index001.html |
| 雨量・水位情報 テレフォンサービス | 電話：0296(25)2180 |

パソコン、スマートフォン・携帯電話で、**川の防災情報ホームページ、気象庁ホームページ**にアクセスするか、**NHK総合テレビのデータ放送**を見ると、雨量観測所のリアルタイム情報、レーダ雨量(XRAIN)情報を見ることができます。雨量観測所のリアルタイム情報は、**下館河川事務所ホームページ**でも確認できます。
雨量・水位情報テレフォンサービスでは、雨量観測所の過去1時間の雨量・累計雨量を確認できます。

■気象に関する警報・注意報

| | |
|-----------|---|
| 気象庁ホームページ | http://www.jma.go.jp/jp/warn/ |
|-----------|---|

気象庁ホームページにアクセスすれば、**警報・注意報の発表状況や、注意警戒すべき期間、ピーク時間、雨量の予想**などを確認できます。「大雨特別警報」は台風や集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想される場合などに発表します。「大雨特別警報」が発表されたら、ただちに地元市町村の避難情報を確認の上、適切な行動をとってください。

メモ

みんなでタイムラインプロジェクト

■ポイント

- ・記載しているURLは、各サイトのトップページになっています。
- ・いざという時にご自身の地区の情報をすぐに見ることができるか、ご自身で実際に見ておいていただくことが効果的です。

【記載例】

- ・各種情報を知る手段に普段から慣れておく。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・このページ以降には「もっと詳しく知りたい」のところにホームページのアドレスなど、より具体的な入手方法をまとめています。
- ・今日、ご自宅に戻られたあとにでも、どの情報が見やすいか一度ご覧いただければよいと思います。平常時に確認しておくことで、いざというときにもすぐにチェックできると思います。ここに書いてあるのはあくまで最初の画面です。知りたい雨量が、知りたい水位が、画面のどこに表示されているのか確認しておいてください。
- ・ご自身の地区のデータはどのように見ることができるのか？川の上流のデータはどのように見られるのか？普段から慣れておくことが重要です。
- ・ここで紹介したもの以外にも情報の入手は可能です。

STEP2

40

STEP 2

■このページでのねらい

- ・洪水時に得られる情報の取得方法を知ってもらう。

■ポイント

- ・川に近づかなくても、ライブカメラで川の状況を見ることができます。
- ・普段、川の色は水色ですが、洪水時には茶色になります。

STEP 2

もっと詳しく知りたい

■川に関する状況

| | |
|----------------------|---|
| 川の防災情報ホームページ | http://www.river.go.jp/ |
| 下館河川事務所ホームページ | http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate_index001.html |
| 雨量・水位情報 テレフォンサービス | 電話：0296(25)2180 |

パソコン、スマートフォン・携帯電話で、川の防災情報ホームページ、下館河川事務所ホームページにアクセスすると、水位観測所のリアルタイム情報、河川の洪水予報を確認できます。NHK総合テレビのデータ放送、雨量・水位情報テレフォンサービスでも、水位観測所のリアルタイム情報を確認できます。

パソコン、スマートフォン・携帯電話で、下館河川事務所ホームページにアクセスすると、鬼怒川のライブ映像を見ることができます。

川が危険な状態ときは、緊急速報メールが配信されます。
詳しくは、[こちら](http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000913.html)。
http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000913.html

| 水位 | 内容 |
|---------|-----------------|
| 氾濫危険水位 | 河川が氾濫する恐れのある水位 |
| 避難判断水位 | 避難情報発表の目安となる水位 |
| 氾濫注意水位 | 河川の氾濫の発生を注意する水位 |
| 水防団待機水位 | 水防団が待機する目安となる水位 |

URL： <http://www.river.go.jp/>

水位観測所では、避難行動の参考となる様々な基準水位が定められています。

URL： http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate_index017.html

みんなでタイムラインプロジェクト

24

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ここでは、川に関する情報を示しています。
- ・川の状況を、ご自宅のパソコンなどで、ライブカメラの映像が見ることもできます。
水位が上昇している時に、川に近づくのは危険ですので、このようなライブカメラの情報などを活用してください。
- ・いざというときにすぐ使えるように、普段から慣れておくことが重要です。

STEP 2

41

■このページでのねらい

- ・洪水時に得られる情報の取得方法を知ってもらう。

STEP 2

📄 もっと詳しく知りたい

■避難に関する情報

| | |
|--------------------|---|
| 〇〇市ホームページ | http://www.city.00000.jp/ |
| 茨城県ホームページ | http://www.pref.ibaraki.jp/ |
| 日本道路交通情報センターホームページ | http://www.jartc.or.jp/ |

〇〇市からの避難情報（避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急））は、**防災行政無線、市防災メール、広報車**で発信されます。

パソコン、スマートフォン・携帯電話で、**〇〇市ホームページ・ツイッター・フェイスブック、茨城県ホームページ**にアクセスしても確認できます。

パソコン、スマートフォン・携帯電話で、**〇〇市ホームページ、茨城県ホームページ、日本道路交通情報センターホームページ**にアクセスすると交通情報が確認できます。




出典：日本道路交通情報センター

メモ

|| 気づく

みんなでタイムラインプロジェクト

25

■ポイント

- ・避難に関する情報は、各自治体で様々なので、状況に合わせて記載しましょう。

【記載例】

- ・今まで各々の情報がこんなに色々な所から得られることを知らなかった。今後は、十分に活用して、被害にあわないようにしていきたい。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ここで紹介したもの以外にも情報の入手は可能です。
- ・ここまです感じたこと、感想などがあれば、25 ページの気づく欄に記入しましょう。

STEP 2

■このページでのねらい

- ・タイムラインとその考え方について知ってもらう。

■ポイント

・タイムラインをイメージしやすいように、「川の水位の上昇イメージ」と「住民の行動の例」を並べて示しています。

・一番下を「はん濫発生」とする。

STEP 2

7.タイムラインの考え方

知る

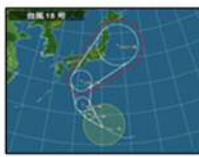
キーワード タイムライン 川の水位

平常時と災害時

■タイムラインとは

防災行動の「何時」「何を」「誰が」が明確になります。
○次何をするか ○今何をすべきか ○誰の動きにつながるか

3日前



半日前



5時間前



3時間前



はん濫発生

※写真はイメージです

行動の例

テレビの天気予報を注意。
1週間分の菓を病院に受け取りに行く。



ハザードマップで避難場所、避難手段を確認
川の水位をインターネットで確認
通行止め情報がないかインターネットで確認



川の水位をインターネットで確認
テレビで洪水予報の確認
市内の指定避難所への開始を判断
市内の指定避難所への避難を完了



※写真はイメージです

みんなでタイムラインプロジェクト

26

■説明する際のシナリオ（例）

- ・「タイムライン」は、日本語では時間軸、その言葉どおり、洪水の発生に備えて、時系列的に防災行動を整理したものを言います。地震と異なり、洪水は事態の進行が予測できるのでタイムラインが有効です。
- ・図に示したとおり、一番下が氾濫の発生時点です。ここをゼロ時として、そこから上に、3時間前、5時間前と上に行くほど時間がさかのぼります。氾濫発生の前、どんな時間で、どんな準備をするのか、時系列で整理をしたものです。
- ・例えば、3日前。台風が発生して関東地方に向かってくるぞ～というときには、天気予報を注意し、時間が進んで、いよいよ明日上陸や関東・東北豪雨の時のような大雨が降り出したというときには半日前です。ハザードマップの再確認をしたり、インターネットを見て情報収集したりします。そして、いよいよ川の水位が上がり、あと3時間であふれるぐらいにまで高くなる時には、避難を完了しておくといった具合です。

■このページでのねらい

- ・タイムラインの平常時・災害時の役割について知ってもらう。

STEP 2

■平常時の役割
○現状が明確になり、課題を抽出できます
○地域をつなぐコミュニケーションツールになります

① リスクを認識できる
・自分の家が浸水してしまう
・避難所まで遠い など



① 逃げるタイミングがわかる
・いつ逃げる？
・誰と逃げる？
・危険な場所をさけて逃げるには？



① コミュニケーションの輪が広がる
・検討会での意見交換などで、知り合いになれる
・ご近所とのつながりが強く、太くなる



■災害時の役割
○災害時の防災行動のチェックリストになり、対応の漏れを防止できます

① 行動をチェック
・避難に必要なもの確認できる
・安全な避難経路を確認できる



あれももって
いかなきゃ

① 判断をサポート
・落ち着いて冷静な行動がとれる



おもついで

実践や訓練で検証し、継続的に見直すことでタイムラインが進化します。
継続的にタイムラインを見直していくことにより、防災力が向上します。

気づく

27

■ポイント

- ・平常時の役割と災害時の役割から、タイムラインの有効性と付加価値を知っていただく。

【記載例】

- ・情報を早く確認し、行動の明確化
- ・近所とのコミュニケーションは重要
- ・事前に防災グッズ等を用意して直ぐに持ち出しできる場所に置いておく

■説明する際のシナリオ（例）

- ・タイムラインには、平常時と災害時の2つの役割があります。
- ・平常時の役割は、まずは、自分たちの住んでいる地域のリスクを認識できます。STEP 1で皆さんにもリスクを知っていただきました。また、自分自身の逃げるタイミングがわかります。それを意見交換することで、ご近所の輪がより強く、太くなります。
- ・一方、災害時には、作成したタイムラインがチェックリストになり、対応の漏れを防ぐことができます。また、今この行動に踏み切っているのか？と迷ったときには、判断をサポートする心強いツールにもなります。
- ・タイムラインは最初から完璧なものを作ることは難しく、むしろ、作ってみて、それを実際の洪水時に利用したり、訓練で使用したりし、追加・改訂し、強化していくことで、防災力向上につながります。

■このページでのねらい

- ・タイムライン使用時の注意点と心得について知ってもらう。

■ポイント

・タイムライン使用時の注意点です。洪水は自然現象のため、タイムラインで想定したとおりに進行するとは限らないことを確認します。

・タイムライン使用時の心得です。タイムラインを参考に臨機応変な対応を確認します。

STEP 2

もっと詳しく知りたい

■タイムライン使用時の心得

マイ・タイムラインを作成すると、自分と家族がとるべき防災行動の「何時」が明確になりますが、次の点に注意しておく必要があります。

注意1：台風が進み方、雨の降り方、川の水位の上がり方は洪水毎に異なります。マイ・タイムラインで想定したとおりに進行するわけではありません。

注意2：同様に、氾濫した際の浸水深や浸水継続時間も洪水毎に異なります。マイ・タイムラインの検討に当たって想定したとおりに氾濫するわけではありません。

注意3：気象警報、洪水予報、避難情報等は実際の気象や河川の状況に応じて発表・発令されるため、マイ・タイムライン上の時間と一致しないことがあります。

注意4：マイ・タイムライン上の時間は、時計のように進むわけではありません。例えば、タイムライン上で氾濫発生が3時間前となっても、水防団（消防団）の水防活動等によって進行を遅らせることができ、結果として3時間経っても氾濫に至らない場合も想定されます。

そのため、実際の洪水においてマイ・タイムラインを使用する際には、次の心得を踏まえて行動してください。

心得1：マイ・タイムラインで定めた「何時」は、あくまで行動の目安として認識する。

心得2：洪水時はテレビやパソコンなどで、台風の進路、降雨の状況、河川の水位、気象警報や避難情報等をこまめに収集・確認する。

心得3：収集・確認した情報をもとに、マイ・タイムラインを参考にして、臨機応変に防災行動の実行を判断する。

みんなでタイムラインプロジェクト

28

■説明する際のシナリオ（例）

- ・タイムライン使用時の注意点と心得を記載しています。
- ・まず、注意点ですが、4項目記載しています。要約すると、「洪水は自然現象なので、タイムラインに記載された事項が、タイムラインで想定したとおりに進行するとは限らない」ということが書いています。
- ・皆さん「当たり前のことだ」と思われるかもしれませんが、これをしっかりと認識しておくことにより、よりの確な防災行動が実施できます。
- ・次に、タイムラインを使う上での心得として3項目を書いております。あくまで行動の目安であるということ、こまめな情報収集が必要ということ、そして、その情報をもとに臨機応変な対応をするということです。

■このページでのねらい

- ・市町が作成・公表しているタイムラインを知ってもらう。
- ・住民等の欄に書かれている防災行動を、マイ・タイムライン検討の参考にってもらう。

■ポイント

- ・气象台、河川事務所や県・市町からどのような情報が発信されるか確認します。
- ・住民等の欄に書かれている防災行動を確認します。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・〇〇市が作成したタイムラインを掲載しています。
- ・一番右側の住民の行動例がありますので、マイ・タイムラインを検討する際の参考にしてください。

STEP2

■このページでのねらい

- ・ご自身やご家族の情報を整理し、最適な避難を想定してもらう。
- ・避難の方法には4つの種類があることを知ってもらう。

■ポイント

・避難の準備や有効な避難を検討する上で、重要な情報を整理します。

【記載例】

- ・必需品：常用薬、眼鏡、子供用ミルク、おむつ、携帯電話、現金、通帳、印鑑等
- ・屋の居場所：勤務先

・4つの方法それぞれに留意点があり、STEP1で確認したご自身の地区や家の状況を踏まえることが重要です。

STEP 2

8.洪水時の自らの行動を想定

知る

キーワード
避難の方法
ハザードマップ

避難のタイミング

避難行動を想定する前に、家族のことを整理しましょう。

| 名前 | 年齢 | 必需品 | 屋の居場所 | 備考 |
|---------|----|---------|--------|----------|
| 例) 防災太郎 | | 血圧を下げる薬 | デイサービス | 足をけがしている |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

- ・自動車の有無 : 有 ()
- ・親戚など避難を受け入れてくれる場所の有無 : 有 ()
- ・ペットの有無 : 有 ()

■避難の方法

| 避難の方法 | 概要 | 留意点 |
|---------------------------|------------------------------|---|
| 自宅に居る (屋内安全確保) | 自宅などその場にとどまり、安全を確保すること | <ul style="list-style-type: none"> ・自宅が平屋の場合は、浸水深が50cm(床上浸水)を越えないこと ・自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域内ではないこと ・浸水継続時間が長い場合は、食料、水、常用薬等の準備をしておくこと |
| 市の指定避難所へ移動 | 市が指定する近隣の避難所へ移動し、安全を確保すること | <ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所が平屋の場合は、浸水深が50cm(床上浸水)を越えないこと ・指定避難所が家屋倒壊等氾濫想定区域内ではないこと ・浸水継続時間が長い場合は、常用薬等の必需品を準備しておくこと (事前に洪水ハザードマップで指定避難所の場所を確認) |
| 市内の高台へ移動 | 市内の浸水想定区域外などへ移動し、安全を確保すること | <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の浸水深を確認すること ・移動手段と移動経路を確認し、適切な行動をとること ・食料、水、常用薬等の必需品を準備しておくこと (高台へ移動する前に通行止め状況や渋滞状況を確認) |
| 隣接市町へ移動 (広域避難) | 隣接市町の浸水想定区域外などへ移動し、安全を確保すること | <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の浸水深を確認すること ・移動手段と移動経路を確認し、適切な行動をとること ・食料、水、常用薬等の必需品を準備しておくこと (隣接市町村のハザードマップで避難場所を確認) |

一言で避難と言っても、いろいろな方法があります。留意点を理解し、いざと言うときに最適な方法を判断できるようにしましょう。

みんなでタイムラインプロジェクト

30

■説明する際のシナリオ（例）

- ・いざというときにご自身が、ご家族が、どのような行動をとるべきなのか、またそれにはどんな準備が必要なのか考えていきたいと思えます。
- ・まずは、上の表で、ご家族のそれぞれで避難時にポイントとなることを整理しましょう。
- ・左から、お名前、年齢とあり、次に「必需品」という欄があります。避難所などでは水や食料などは手に入ると思いますが、ただし、例えば、ここに例として書いている「血圧の薬」なんかは毎日飲まれると思いますが、避難所では手に入りません。毎日使っているもので、避難所でなくて困るものを記入してください。

STEP2

- ・次に、「昼の居場所」欄ですが、例に書いている「デイサービス」や、職場・学校など、ご自宅以外で長くおられる場所を記入してください。
 - ・その他、注意すべき点などがあれば、備考に記入してください。
 - ・そして、表の下ですが、車をお持ちの方は「有」にチェックし、隣のカッコに台数や乗れる人数などをメモしておきましょう。また、水害時の避難先として受け入れてくれる場所があるか、ペットの有無などもメモしておきましょう。
 - ・必需品について、意見交換をしてみましょう。
 - ・下段には避難の方法をまとめています。
 - ・一口に「避難」と言っても実はいろいろなパターンが考えられます。
- ・一つ目は、自宅などその場にとどまって安全を確保する方法です。これを「屋内安全確保」と呼びます。家の2階などで洪水をやり過ごすということです。この方法をとる場合の留意点は、ご自宅付近の浸水深を見て、浸水しない場所があるか、また、倒壊が想定される区域ではないか、確認しておく必要があります。そして、浸水継続時間をチェックし、それに堪えられる食料や水、常用薬などを蓄えておく必要があります。
- ・二つ目は、市町の指定している近傍の避難所へ移動して安全を確保する方法です。〇〇地区では、△△中学校になりますね。ここでも、避難所について、一つ目のご自宅で確認したことと同じ項目、浸水深や倒壊、継続時間などを確認しておく必要があります。また、事前にハザードマップで避難所の場所や避難経路を確認しておくことも重要です。
- ・三つ目は、市内の高台など浸水想定区域外へ移動する方法です。ノートの標高図を見てもみると、〇〇地区の近くでは、■■のあたりへ行くのが一番近い高台ですかね。この方法をとる場合の留意点は、そこまでの避難経路の浸水深を確認しておくことが必要です。また、移動する手段と経路を事前に決めておくことが必要です。移動中に通行止めが発生したり、渋滞の恐れもあるので、リアルタイムで状況を確認できるようにすることも大切です。なお、指定の避難所ではありませんので、その場所に移動してからも、食料や水が無いことも考えられます。自分で準備する必要があります。
- ・最後、四つ目は、隣接市町の浸水想定区域外への避難です。こちらも、避難経路や手段を確認し、事前に決めておく必要があります。移動中の通行止めや渋滞に注意することや、食料・水についても同様です。隣接市町のハザードマップも確認しておきたいですね。

STEP2

■このページでのねらい

- ・ご自身の市町のハザードマップと隣接市町のハザードマップを知ってもらう。

■ポイント

- ・ご自身の市町のハザードマップを確認します。
- ・過去に配布していても、持っていない方がおられるかもしれません。

- ・避難先として隣接自治体を想定している方がいるかもしれません。

STEP 2

知る

キーワード
避難場所
隣接市町村のハザードマップ

■我が街の洪水ハザードマップ

市町村が配布した洪水ハザードマップを見ると、地区毎の避難所を確認できます。



ハザードマップをご自身の自治体のものに差し替えましょう。素材はこちらから

- ・各自治体の防災関連ホームページ
- ・国土交通省ハザードマップポータルサイト「わがまちハザードマップ」
<http://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/>

図面10で確認しましょう。

■もっと詳しく知りたい

■隣接市町村の洪水ハザードマップ

近くに、適切な避難場所が無い場合は、隣接する市町村の避難所を確認してみましょう。



ハザードマップをご自身の自治体の隣接自治体のものに差し替えましょう。素材はこちらから

- ・各自治体の防災関連ホームページ
- ・国土交通省ハザードマップポータルサイト「わがまちハザードマップ」
<http://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/>

図面11で確認しましょう。

みんなでタイムラインプロジェクト

31

■説明する際のシナリオ（例）

- ・〇〇市町と、隣接する△△市町のハザードマップを載せています。
- ・ご自身の住んでいる市町のハザードマップは、過去に配布されているはずですが、ご自宅にない場合は、市役所や町役場へもらいにいきましょう。
- ・インターネットでは国土交通省ハザードマップポータルサイト「わがまちハザードマップ」でも閲覧できますので、確認しておきましょう。

STEP2

■このページでのねらい

- ・ご自身の市町のハザードマップから、指定避難場所や浸水深等を把握してもらう。

常総市洪水ハザードマップ
常総市若宮戸地区【図面10】

出典：〇〇市HP
http://www.city.〇〇〇〇〇.jp/

みんなでタイムラインプロジェクト

■ポイント

- ・市町全体のハザードマップは広範囲であるため、拡大したもので、ご自身の避難場所を確認しましょう。
- ・さらに詳しく自分で調べたい場合は、ここから情報入手できます。

32

■説明する際のシナリオ（例）

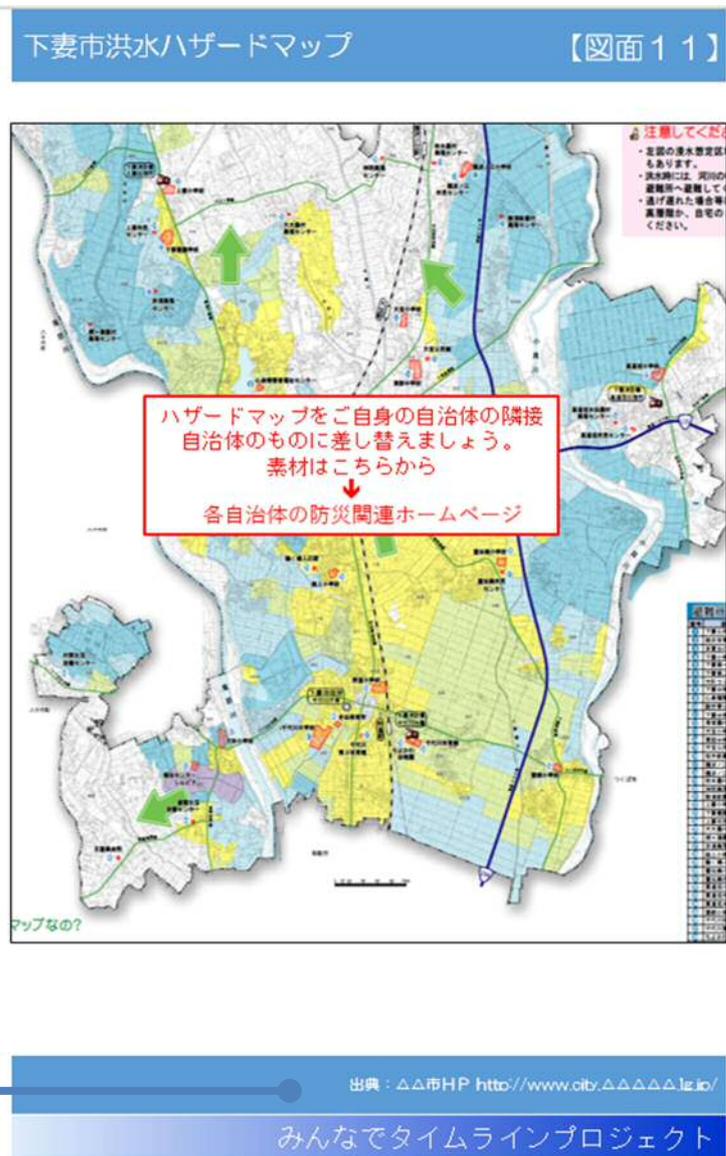
- ・〇〇市町のハザードマップを拡大したものになります。
- ・ご自宅と指定避難場所の浸水状況等を確認しておきましょう。

STEP2

■このページでのねらい

- ・隣接市町のハザードマップから、避難場所や浸水深等を把握してもらう。

■ポイント



- ・隣接自治体のハザードマップの入手する場合は、ここから情報を入手できます。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・隣接する△△市町のハザードマップになります。
- ・浸水しない高台や隣接自治体の浸水状況等を確認しておきましょう。

■このページでのねらい

- ・避難所への移動手段とそれぞれの長所・短所を知ってもらう。
- ・氾濫発生後の避難が危険であることを知ってもらう。

STEP 2

📖 もっと詳しく知りたい

■避難所への移動手段

洪水時の移動手段の原則は、徒歩

| 移動手段 参考速度 | 長 所 | 短 所 |
|---|--|---|
| 徒歩 成人:4km/h 高齢者3km/h | ・車が入れない場所でも移動できる ・緊急時の対処が他の手段に比べ対応しやすい | ・避難所まで遠い場合や雨の中を歩くのは、高齢者や子供が大変  |
| 自家用車 40km/h | ・高齢者や子供を連れて避難する場合に有効 ・徒歩に比べて、移動速度が速い ・雨に濡れずに避難ができる | ・水に浸かると動ける恐れがある ・渋滞にはまる恐れがある ・避難所に駐車場がない場合がある ・緊急車両の通行の妨げになる恐れがある  |
| 公共交通機関 電車: 80km/h バス: 40km/h | ・一度に多くの人を輸送できる | ・決まった運行場所・運行時間のため、各自の避難したいタイミングなどと折り合わない恐れがある ・避難所に直接たどり着けない |

■洪水時の避難の危険性

イラスト出典：常総市ハザードマップ避難時の心得

【実験データ】
 浸水深が0.5m（大人の膝）程度で、氾濫流速が0.7m/s程度でも避難は困難となります。

【洪水氾濫時の移動困難事例】
 平成24年7月九州北部豪雨での沖端川の堤防決壊で氾濫流により移動が困難となっている。
 水深は、ガードレールとほぼ同じ高さに氾濫水の水面があることから0.5m～0.6mと推算される。



出典：水害ハザードマップ作成の手引き



出典：水害ハザードマップ作成の手引き

みんなでタイムラインプロジェクト

■ポイント

- ・避難所への移動手段の原則は徒歩です。
- ・徒歩以外の手段についても、長所・短所を確認しておきましょう。

- ・氾濫発生後に避難することの危険性を実験データや写真で確認しましょう。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・避難所への移動手段として、徒歩、自家用車、公共交通機関のそれぞれについて、長所と短所をまとめています。
- ・次に下段ですが、氾濫が発生してからの避難が危険であることを示しています。大人の膝ぐらいの深さで浸水しますと、歩行が困難になります。なお、膝下であると安全ということではないので、浸水する前には避難を完了しておくことが基本です。
- ・また、浸水している中を車で移動すると、エンジンがストップするなどの危険があることも覚えておいてください。

STEP 2

■このページでのねらい

- ・ 氾濫発生後の避難が危険であることを知ってもらう。

■ポイント

・ 氾濫後の避難は他にも危険があることを確認しておきましょう。

・ 関東・東北豪雨時のまちなかを勢いよく流れる氾濫水を動画で見ると、実感できます。

※URLに、動画データがありますので、活用ください。

STEP 2

もっと詳しく知りたい

■洪水時の避難の危険性

【氾濫水は濁っている】
氾濫水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが開いているマンホールの穴は、見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認しながら移動しましょう。

【平成27年9月関東・東北豪雨時の氾濫流の流速】
鬼怒川決壊地点近傍では、非常に速い流速が発生していました。

出典：水害ハザードマップ作成の手引き

提供：鬼怒川堤防調査委員会
(近隣住民の方から提供)

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/river_bousai00000101.html

メモ

みんなでタイムラインプロジェクト

35

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ 氾濫の水が濁っているため、側溝などに足をとられる場合があります。やむを得ず移動する場合は、棒などで足下を確認しながら移動しましょう。
- ・ ここで、関東・東北豪雨の時の三坂での様子が撮影されたビデオをご覧ください。
- ・ この映像は、まだ決壊していない状態ですが、こんなに水が流れています。この状態で歩いて逃げるのは危険です。決壊した後は水かさも増します。
- ・ これは決壊箇所のすぐ近くですが、氾濫後の移動が危険だということはおわかりいただけると思います。そのため、氾濫が始まる前に、避難を完了させておくことが大切です。

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムラインを作成する上での避難に関する時間の整理をしてもらう。

STEP 2

■避難の方法



避難の方法と必要となる準備を記入してみましょう。早めの避難の完了を目指しましょう。

| 避難の方法 | 場 所 又は 住 所 | 手 段 | ① 避難を完了 したい時刻 | ② 移動に 要する時間 | (A) 要する準備 |
|----------------|------------------|------|---------------------|-------------------|------------------------|
| (例1) 指定の避難所 | 〇〇小学校 | 徒歩 | 3時間前 | 30分 | 持ち出し品 戸締り ・ ・ |
| (例2) 遠くの親戚 | △△市 | 自家用車 | 4時間前 | 60分 | 祖父の業 戸締り ・ ・ |
| 自宅 | | | | | |
| 指定 避難所 | | | | | |
| 市内の高台 | | | | | |
| 遠くの 親戚 | | | | | |
| その他 (職場など) | | | | | |
| | | | | | |

気づく

みんなでタイムラインプロジェクト

36

■ポイント

- ・避難の方法を一つにしぼらず、それぞれの避難方法について考えておくことが重要です。

【記載例】

- ・避難の方法はひとつではないから、いろんなパターンを考えておく。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ここから、住民の方同士で相談しながら進めていくことにしましょう。
- ・まずは、左から「場所または住所」は逃げる先、「手段」は移動手段、「①避難を完了したい時刻」は、逃げ切っておきたい時刻、さきほど映像でみていただいた、道に水が流れている状態になるどのくらい前に、安全なところへたどりついておきたいか？ということです。「②移動に要する時間」は、自宅からその場所まで移動するのにかかる時間で最後の「要する準備」は、逃げるのに必要な準備を書き出しておく欄です。

・なお、ここの記入は、例えば、昼か夜か、休日か平日か、などによって考え方が変わってくる場合もあるかと思えます。まずは、もっとも逃げやすい、シンプルなこと、例えば、明るいときにご自宅からどう逃げるかを想定していただきたいと思えます。その上で、逃げにくい条件になった時には、それにあわせて逃げ方を修正し、別の段に記載していただければと思えます。

STEP 2

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムラインを作成する上での避難に関する時間の整理をしてもらう。

■ポイント

- ・①②(A)は前のページで整理したものです。

- ・①②③と下から順に時間を埋めていきましょう。

STEP 2

■避難のタイミングの整理



36ページで書いた時間を参考に整理していきましょう。
一番下の①から時間をさかのぼってかいてみましょう。

| (例1) 避難の場所 <input type="text" value="〇〇小学校"/> | (例2) 避難の場所 <input type="text" value="△△市(遠くの親戚)"/> |
|--|--|
| (A) 要する準備 ・持ち出し品 ・戸締まり ・ ・ | (A) 要する準備 ・祖父の薬 ・戸締まり ・ ・ |
| ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 <input type="text" value="4"/> 時間前 (①+②) | ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 <input type="text" value="5"/> 時間前 (①+②) |
| ↑ ② 要する時間(移動時間) <input type="text" value="30"/> 分 | ↑ ② 要する時間(移動時間) <input type="text" value="60"/> 分 |
| ① 避難を完了したい時刻 <input type="text" value="3"/> 時間前 | ① 避難を完了したい時刻 <input type="text" value="4"/> 時間前 |

| 避難の場所 <input type="text"/> | 避難の場所 <input type="text"/> |
|--|--|
| (A) 要する準備 ・ ・ ・ ・ | (A) 要する準備 ・ ・ ・ ・ |
| ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 <input type="text"/> 時間前 (①+②) | ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 <input type="text"/> 時間前 (①+②) |
| ↑ ② 要する時間(移動時間) <input type="text"/> 分 | ↑ ② 要する時間(移動時間) <input type="text"/> 分 |
| ① 避難を完了したい時刻 <input type="text"/> 時間前 | ① 避難を完了したい時刻 <input type="text"/> 時間前 |

みんなでタイムラインプロジェクト

37

■説明する際のシナリオ(例)

- ・前のページで記載した「①避難を完了したい時刻」、「②移動に要する時間」、「(A) 要する準備を」をそのまま書いてみましょう。
- ・「③避難場所へ移動を開始する時刻」は①と②を足した時間を記載しましょう。

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムラインを作成する上での避難に関する時間の整理をしてもらう。

STEP 2

■避難のタイミングの整理

 36ページで書いた時間を参考に整理していきましょう。一番下の①から時間をさかのぼってかいてみましょう。

| | |
|------------------|----------------|
| 避難の場所 | |
| (A) 要する準備 | |
| ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 | |
| ↑ | ② 要する時間 (移動時間) |
| ① 避難を完了したい時刻 | |

| | |
|------------------|----------------|
| 避難の場所 | |
| (A) 要する準備 | |
| ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 | |
| ↑ | ② 要する時間 (移動時間) |
| ① 避難を完了したい時刻 | |

| | |
|------------------|----------------|
| 避難の場所 | |
| (A) 要する準備 | |
| ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 | |
| ↑ | ② 要する時間 (移動時間) |
| ① 避難を完了したい時刻 | |

| | |
|------------------|----------------|
| 避難の場所 | |
| (A) 要する準備 | |
| ③ 避難場所へ移動を開始する時刻 | |
| ↑ | ② 要する時間 (移動時間) |
| ① 避難を完了したい時刻 | |

みんなでタイムラインプロジェクト

38

■ポイント

- ・避難の方法を一つにしぼらず、それぞれの避難方法について考えておくことが重要です。
- ・逃げ道が多いほど、逃げ切れる確率が高くなります。

■説明する際のシナリオ（例）

- ・様々な避難の方法について、記載してみましょう。
- ・様々な避難の方法を考えることで、いざという時に、臨機応変な対応ができるようになります。

STEP 2

■このページでのねらい

- ・STEP 2 を通じて、安全に避難するために必要と考えることを記入してもらう。
- ・他の人との意見などを聞いて思ったことや考えたことなどを記載してもらう。

■ポイント

【記載例】

- ・一番オーソドックスな考えで避難を考え、それにオプションをつけていく。(障害者、幼児、高齢者、夜等)
- ・各種の情報により、早めの避難をして、できるだけ被害を少なくする。
- ・ハザードマップを利用して高台へ避難する。

STEP 2

考える

みんなでタイムラインプロジェクト

39

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ここまで、考えたことや他の人の意見などを聞いて考えたことなどを記載しましょう。

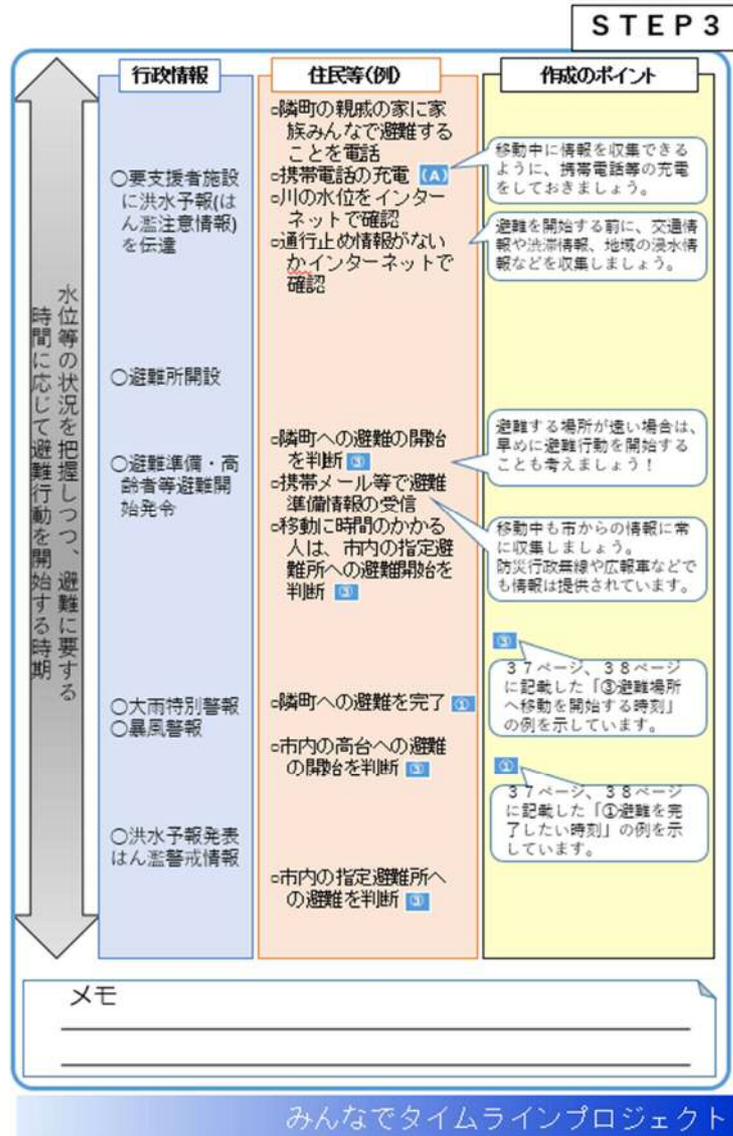
STEP3

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムライン作成のポイントを知ってもらう。

■ポイント

- ・①③(A)は STEP2 のノート 37 ページで整理したものです。



41

■説明する際のシナリオ(例)

- ・オレンジ色は、住民の行動例を示しています。その中に、(A)、①、③と表示しているのは、「避難タイミングの整理」で示した(A)要する準備、①避難を完了したい時刻、②避難場所へ移動を開始する時刻ですので、参考にしてください。
- ・また、黄色はマイ・タイムライン作成のポイントになりますので、こちらも参考にしてください。

STEP 3

■このページでのねらい

- ・マイ・タイムラインの作成途中や作成後に気づいたことを書き留めてもらう。
- ・他の人との意見などを聞いて思ったことや考えたことなどを記載してもらう。

■ポイント

【記載例】

- ・必要なものは、事前に2階へ移動させる。
- ・情報を正確に早くとり、動けるうちに早めの行動・判断を！

気づく

【記載例】

- ・マイ・タイムラインの習慣化・日常化
- ・作成したマイ・タイムラインの共有化
- ・ペットも家族の一員であるため、事前にペットの避難についても考える。
- ・浸水が長く続くようであれば、避難場所は、親戚のところが良いと思った。

考える

STEP 3

みんなでタイムラインプロジェクト

43

■説明する際のシナリオ（例）

- ・ここまで、考えたことや他の人の意見などを聞いて、気づいたことや考えたことなどを記載しましょう。

STEP 3

3 マイ・タイムラインの運用

3.1 洪水時におけるマイ・タイムラインの活用

作成したマイ・タイムラインは、洪水の発生が想定される際に、住民一人ひとりあるいは各家庭の洪水対策として積極的に活用されることが重要である。

そして、天気予報等において台風の接近や前線の発達といった情報が発信された場合には、住民一人ひとりの防災行動をおさらいするためにも、マイ・タイムラインを確認し、あらためて洪水時における自らの行動を想定しておくことが望ましい。

なお、洪水は自然現象であるため、その都度、台風・降雨・河川の状況等を考慮して判断しなければならないことにも留意しておく必要がある。

また、実際の洪水で活用した後は、その活用状況を踏まえてマイ・タイムラインを改善することが望ましい。

【解説】

マイ・タイムラインは、作成しておけば良いというものではなく、実際に洪水の発生が想定される際に、住民一人ひとりあるいは各家庭の洪水対策として積極的に活用されることが重要である。

そのため、各市町が配布している洪水ハザードマップ等とあわせて、各家庭で日常的に目にする場所に置かれることが望ましい。また、これにより、常日頃から住民一人ひとりが水防災を意識することにも繋がる。

そして、天気予報等において台風の接近や前線の発達といった情報が発信された場合には、住民一人ひとりの防災行動をおさらいするためにも、マイ・タイムラインを確認し、報道される台風の進路や降雨の予測等と照らして、あらためて洪水時における自らの防災行動を想定しておくことにより、円滑な避難や地区での共助に繋がるものと考えられる。特に、マイ・タイムラインに盛り込まれたどの防災行動で台風・降雨・河川の状況等が把握できるのかを知っておくことは重要である。

なお、洪水は自然現象であるため、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではなく、その都度、台風・降雨・河川の状況等を考慮して判断しなければならないことにも留意しておく必要がある。

また、実際の洪水で活用した後は、その活用状況を踏まえてマイ・タイムラインを改善することが望ましい。例えば、想定よりも防災行動に時間を要した場合には、マイ・タイムライン上の実施時刻を前倒しすることなどが考えられる。マイ・タイムライン作成時に検討会を開催していた場合は、再度、検討会を開催して意見交換することにより、より効果的にマイ・タイムラインを改善できるものと考えられる。

3.2 マイ・タイムラインのメンテナンス

自分自身が置かれている環境の変化に応じてマイ・タイムラインを変更していく必要がある。例えば、家族が増えたとき、職場や学校が変わったときなど、マイ・タイムラインをあらためて確認し、必要な防災行動を整理していくことが求められる。

また、自分自身の環境の変化に加えて、市町のタイムラインが変更されたり、行政が発信する情報が変更したりした場合にも、マイ・タイムラインを変更していく必要がある。

【解説】

マイ・タイムラインは一度作成したものを使い続けるというのではなく、家族の成長、職場や学校が変わるなどに伴い、行動範囲や生活内容といった自分自身が置かれている環境が変わることから、それらに応じてマイ・タイムラインを変更していく必要がある。作成したマイ・タイムラインをあらためて確認し、新たに必要となった防災行動の追加や不要となった防災行動の削除、準備や移動に要する時間の変化に応じた調整等、必要な防災行動を整理していくことが求められる。

また、自分自身の環境の変化に加えて、市町のタイムラインが変更されたり、行政の発信する情報が充実したりするなどの変化も想定される。これらの変化についても、マイ・タイムラインを変更していく必要がある。こういった行政側の変化について、マイ・タイムラインの検討を行った市町においては、マイ・タイムライン上の取り扱いも踏まえて情報発信されることが望ましい。

3.3 防災訓練等でのマイ・タイムラインの活用

作成したマイ・タイムラインを活用して防災訓練等を実施することは、マイ・タイムラインを点検する意味からも、また防災意識の低下を防ぐ意味からも重要である。

また、訓練等を実施して気づいた点等があれば、その点を踏まえてマイ・タイムラインを改善することが望ましい。

【解説】

作成したマイ・タイムラインを活用して防災訓練等を実施することは重要である。我が国においては、洪水は毎年どこかで発生しているが、住民一人ひとりと考えると経験する頻度は少ない。そのため、年に1度程度はマイ・タイムラインを用いて洪水対応の防災訓練等を実施することは重要である。

訓練においては、想定する洪水の進行にあわせて具体的にマイ・タイムラインを活用してみることにより、マイ・タイムラインが使いやすいものとなっているか、避難準備の手順が適切であるか等について点検することができる。そして、このような訓練を実施することにより、低下しがちな防災意識を高い状態で持続させることも可能となる。

また、実際の洪水でマイ・タイムラインを活用した場合と同様に、訓練等を実施して気づいた点等があれば、その点を踏まえてマイ・タイムラインを改善することが望ましい。

なお、マイ・タイムライン作成時に検討会を開催していた場合は、検討会において訓練やその後の意見交換をすることにより、より効果的にマイ・タイムラインを改善できるものと考えられる。

3.4 市町のタイムライン等へのフィードバック

マイ・タイムラインの検討を行った市町においては、作成されたマイ・タイムラインを参考にすることによって住民の防災行動の傾向を把握することができる。これを市町のタイムライン等にフィードバックすることにより、よりの確に住民避難を支援できるように市町の防災行動を充実させることが可能となる。

【解説】

マイ・タイムラインの検討を行った市町においては、住民一人ひとりの防災行動がマイ・タイムラインに整理されることから、作成されたマイ・タイムラインを参考にすることによって住民の防災行動の傾向を把握することができる。これを市町のタイムライン等にフィードバックすることにより、よりの確に住民避難を支援できるように市町の防災行動を充実させることが可能となる。

また、行政だけでは担いきれない防災行動の必要性等が明確になれば、自治会や自主防災組織等が住民避難を支援するといった、共助の取り組みを考えるきっかけにもなり得る。

マイ・タイムライン検討の手引き【大規模洪水からの『逃げ遅れゼロ』に向けて】

作成：平成 29 年 5 月 11 日

企画・編集 鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

問い合わせ先 国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所
茨城県筑西市二木成 1753 番地 0296-25-2161
